



中学校・高等学校軽音楽部

顧問通信

2021年2月号 VOL.33

※本誌に記載されている記事の内容や数字などの全部、または一部を無断で複製、引用することを禁じます。利用の際は当協会までご一報ください。



DiGiRECO.JR 2021年2月号



アンサンブルが良くなる指導ポイント

「部活動の地域移行」への流れ

文部科学省「『学校と地域が協働・融合』した部活動の具体的な実現方策とスケジュール」を取りまとめ

第3回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会 レポート

第8回 愛知県高等学校軽音楽大会 レポート

DiGiRECO BAND CLINIC：第92回 桜美林高等学校 軽音楽部

CONTRIBUTE

音楽の力ですべての人を笑顔に！～0からつくる軽音楽部～【東京都】新渡戸文化高等学校 軽音楽部

「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」と軽音楽部の接点

軽音楽部の大会における統一審査基準（案）

特定非営利活動法人 (NPO法人)

全国学校軽音楽部協会 監修
発行

全国学校軽音楽部協会は 「部活動は教育の一環である」の理念のもと 高等学校軽音楽部の活動を応援しています。

現在、全国で軽音楽系の部活動が活発に行われ、多くの生徒が軽音楽を通して様々なことを学んでいます。それは、軽音楽部の「自主性」や「責任感」の伴う活動が学習意欲の向上につながり、「コミュニケーション」「チームワーク」「クリエイティビティー」といった社会で必要とされるスキルを育てることができる部活動だと認知されてきたからだと思います。しかし、その一方で、他の部活動に比べるとまだその運営方法や指導方法などが確立しておらず、学校単位、各都道府県の高等学校文化連盟軽音楽専門部や軽音楽連盟単位での活動にとどまっているのが現状です。また、大会における審査基準やレギュレーション、校外活動の範囲、部活動とバンド活動との違いなどに統一された定義がないことが軽音楽部の発展の妨げになっていると思います。

今後、軽音楽部の社会的な認知と発展が進み、生徒が部活動として正しく活動できる状態にするには、文化庁をはじめ、各都道府県の高文連専門部や連盟、顧問の先生方と協力しながら、全国規模の交流ができる場を作ることや軽音楽部員への直接的な支援、及び指導が必要だと思います。

私たちは、このような支援活動を推進するには、公平性と中立性を保ちながら、情報公開を通じて広く一般の方の賛同を得ることができる特定非営利活動法人としての活動が望ましいと考え、本協会を設立しました。これまでも、情報誌の発行、大会や合同演奏会の運営支援、大会プログラムの発行、生徒や顧問への各種クリニックや講習会の開催、軽音楽連盟発足の支援などを行ってきました。今後も不特定、かつ多数の公益に寄与しながら、軽音楽を通して青少年の健全な育成を目指していきます。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会
理事長 三谷佳之





中学校・高等学校軽音楽部

顧問通信

■中学校・高等学校軽音楽部 顧問通信 VOL.33
■JAN・2021 (第6巻1号通巻33号)
■発行日：令和3年1月29日 (金)
■監修・発行：特定非営利活動法人 (NPO法人)
全国学校軽音楽部協会
〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-37-6-405
TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900
E-Mail：info@keionkyo.org
■企画・編集：株式会社ミュージックネットワーク

※本誌に記載されている記事の内容や数字などの全部、または一部を無断で複製、引用することを禁じます。利用する際は当協会までご一報ください。

編集長の言葉 ...4

全国学校軽音楽部協会とは... ...6

配布校リスト ...8

全国高等学校軽音楽連盟 連絡先一覧 ...12

「部活動の地域移行」への流れ

文部科学省「『学校と地域が協働・融合』した部活動の具体的な実現方策とスケジュール」を取りまとめ ...36

「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」と軽音楽部の接点 ...38

軽音楽部の大会における統一審査基準 (案) ...40

アンサンブルが良くなる指導ポイント ...13

REPORT

第8回 愛知県高等学校軽音楽大会 ...26

愛知県立瀬戸窯業高等学校 PSLMC 顧問 佐藤大介
名古屋市立名東高等学校 軽音楽部 顧問 本多剛人

第3回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会 ...28

岐阜県立可児高等学校 軽音楽部 顧問 山田勘太郎
愛知県立岩倉総合高等学校 フォーク部 顧問 栗原 友

INTERVIEW

DiGiRECO BAND CLINIC ...30

第92回 桜美林高等学校 軽音楽部 顧問 佐竹修子

CONTRIBUTE

音楽の力ですべての人を笑顔に！
～0からつくる軽音楽部～ ...32

【東京都】新渡戸文化高等学校 軽音楽部



温故知新のチャンス

昨年はコロナ禍で部活動だけでなく、授業や校内行事も思うように進められませんでした。生徒の活動目標となっていた県大会やコンテストの多くが中止、または無観客やオンラインになりました。新型コロナウイルスの問題は特定の地域だけの話ではなく、国内問題でもなく、世界規模で起きている、まさに未曾有の事態となりました。しかも、今の状況を鑑みると新型コロナウイルス問題は今年度中には終息せず、冬になるとインフルエンザが流行るように、ワクチンが開発された後も、しばらくは冬の定番の1つに加わると思います。そんな中、これからの社会や学校生活、部活動がどうなるかに正解はなく、誰にもわかりません。大切なことはこの大きな変化に対応していくこと、乗り切ることではないでしょうか。何が正しいかわからない時代はなんでもやってみて、試行錯誤を繰り返して、最善策を探る他はありません。視点を変えると、コロナを契機に「温故知新」として、過去を引き摺らないで新しい「部活動としての軽音楽部」を始めるチャンスかもしれません。

最近、各地で軽音楽部の人気が高まっています。そういう気運を感じてか、高文連でも軽音楽部とダンス部という、若者に人気のある部活動に注目しているようです。良い風が吹き始めている今、各県では、高文連に軽音楽専門部の設立を見越した戦略を持って連盟を設立して欲しいと願っています。そういう意味で、昨年4月に設立し

た愛知県高等学校軽音楽連盟は顧問の先生方と当協会の協調の好例だと自負しています。次は2024年の岐阜総文に向けて、岐阜県、及び東海圏の軽音楽部の活性化に取り組んでいます。

一方、高齢化社会や後継者不足などの社会問題と同様、活発に軽音楽部の活動をされている県におかれてもバンドや楽器経験のある顧問の減少が課題になり始めています。さらに、働き方改革も加味されるので、指導者の減少が危惧され、外部指導員の必要性が文化庁から発信されています。外部指導者を受け入れるには、普段の軽音楽部の活動を足元から見直す必要があると思います。そこで、当協会では音楽専門学校と協力してガイドラインの作成を進めており、今月末に文化庁に提案する予定です。

さて、部活動におけるバンド活動の目的は個人の演奏技術の向上ではなく、全体のアンサンブルだと思います。また、自ら何かを生み出す想像力を磨けるのも軽音楽部ならではの魅力であり、アンサンブルの向上とオリジナル曲の創作は軽音楽部の魅力(目的)の双璧をなすものではないでしょうか。今月号は「アンサンブルが良くなる指導ポイント」をフィーチャーしました。参考になれば幸いです。「オリジナル曲の創作」に関してはクリニックなどを開催しておりますので、興味のある方はご連絡ください。

では、また次号で…。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会
理事長 三谷佳之
mitani@keionkyo.org
Twitter @yoshiyukimitani



三谷佳之 YOSHIYUKI MITANI
BLOOD SABBATH (www.bloodsabbath.com)

小学生で電気に興味を持つ。中学生でブリティッシュ・ロックに目覚め、将来はイギリスに住む！と妄想。英語は必須と直感。エレキ・ギターを弾きつつ、シンセサイザーに興味を持ち、楽器より電気に傾倒。国立奈良工業高等専門学校電気工学科に進学。ロックバンドを組むが長続きせず。在学中、興味の対象は広告宣伝や販売促進、マーケティングに移る。某電子楽器メーカーに就職後、最新テクノロジーだった通信事業に興味を持ち、9年間の勤務を経て、独立。ミュージックネットワークを設立。インターネットのない時代から音楽と通信ネットワークの分野で数々の日本初のビジネスを立ち上げる。2000年の少し前、インターネット業界では当たり前の「コンテンツは無料」というコンセプトを雑誌に応用した「無料雑誌」を思いつき、創刊。2013年、高校の軽音楽部向けの無料雑誌「DiGiRECO.JR」を創刊。2018年、大学の軽音楽サークル向けの無料雑誌「DiGiRECO.SR」を創刊。同年、特定非営利活動法人「全国学校軽音楽部協会」を設立。

音楽面では約10年前にバンドへの興味が再燃。ハードロック系イベントを主催する。その後、主催するよりも出演する方が楽しそう…ということで方向転換。高専生時代から好きだったヘヴィメタルの元祖「BLACK SABBATH」のトリビュート・バンド「BLOOD SABBATH」を結成。年間12回以上のライブを展開。編集長の立場を利用してBLACK SABBATHのメンバーに会うなど…やりたい放題の公私混同。2013年5月、直訳ロッカーの王様と日本語でBLACK SABBATHの名曲を演奏したアルバム「黒い安息日伝説」を発売。好調な売れ行きに気を良くして、現在、第2弾を計画中。2015年5月、BLACK SABBATHのギタリストであるトニー・アイオミのトリビュート・アルバムに参加。世界デビューを果たす。

※ 会社のホームページで設立以来の活動を紹介しています



軽音協

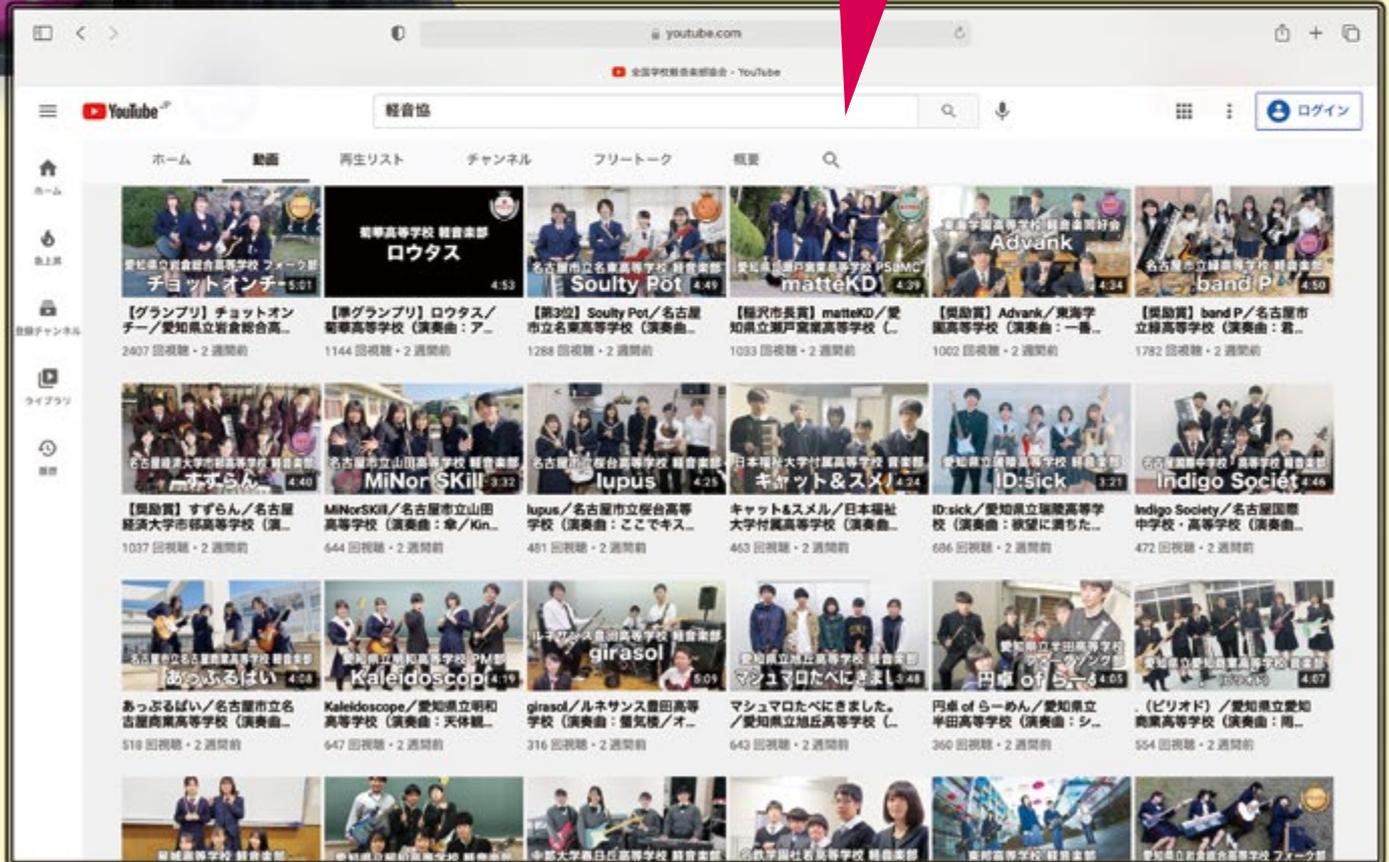
YouTube チャンネル始めました。

チャンネル登録してね!

第8回 愛知県高等学校軽音楽大会
第3回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会
大会出場 40 バンドの演奏映像を公開中!

再生リストから1バンドずつ視聴できますので、ぜひご覧ください。会場に来られなかった部員や保護者の方々はもちろん、たくさんの方々に軽音楽部の「今」を見ていただければと思います。

他校のバンドの演奏から学ぼう！
自分たちでも講評してみよう！



全国の中高大学校の軽音楽部 を支援しています

全国学校軽音楽部協会とは…

現在、全国で軽音楽系の部活動が活発に行われ、多くの生徒が軽音楽を通して様々なことを学んでいます。それは、軽音楽部の「自主性」や「責任感」の伴う活動が学習意欲の向上につながり、「コミュニケーション」「チームワーク」「クリエイティビティー」といった社会で必要とされるスキルを育てることができる部活動だと認知されてきたからだと思えます。しかし、その一方で、他の部活動に比べるとまだその運営方法や指導方法などが確立しておらず、学校単位、各都道府県の高等学校文化連盟軽音楽専門部や軽音楽連盟単位での活動にとどまっているのが現状です。また、大会における審査基準やレギュレーション、校外活動の範囲、部活動とバンド活動との違いなどに統一された定義がないことが軽音楽部の発展の妨げになっていると思えます。

今後、軽音楽部の社会的な認知と発展が進み、生徒が部活動として正しく活動できる状態にするには、文化庁をはじめ、各都道府県の高文連専門部や連盟、顧問の先生方と協力しながら、全国規模の交流ができる場を作ることや軽音楽部員への直接的な支援、及び指導が必要だと思えます。

私たちは、このような支援活動を推進するには、公平性と中立性を保ちながら、情報公開を通じて広く一般の方の賛同を得ることができる特定非営利活動法人としての活動が望ましいと考え、本協会を設立しました。これまでも、情報誌の発行、大会や合同演奏会の運営支援、大会プログラムの発行、生徒や顧問への各種クリニックや講習会の開催、軽音楽連盟発足の支援などを行ってきました。今後も不特定、かつ多数の公益に寄与しながら、軽音楽を通して青少年の健全な育成を目指していきます。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会
理事長 三谷佳之

ご寄付のお願い

軽音楽部は部活動の一つであり、部活動は学校教育の一環です。学校教育であればこそ、公平性、中立性、継続性が大切です。それらを踏まえ、部活動を支援する団体としては特定非営利活動法人 (NPO 法人) の形態が望ましいと考えました。

軽音楽部の強みはバンドや音楽を通して、社会が求める人材を育成できることです。全国の軽音楽部がより良い活動ができるように応援したい…。当協会の理念や活動内容にご賛同いただける方々のご寄付をお待ちしております。

公平性

全国的に公平であることが求められます。都心の学校でも地方の学校でも機会が均等に提供されることが大切です。営利目的の費用対効果では測れません。

中立性

中立性が保障されることが求められます。生徒にとって本当に有益なサポートを提供できることが大切です。特定の企業に偏らず、中立な立場が求められます。

継続性

継続性を担保することが求められます。企業の業績の変動等の理由で支援が中断されるようなことがなく、継続的にサポートを続けることが重要です。

全国学校軽音楽部協会へのご寄付をお願いします

音楽・楽器ファンの方や軽音楽部の顧問の先生、父兄、OBやOGの皆様、軽音楽部を応援していただけるあらゆる方からのご寄付をお待ちしております。1,000円から受け付けています。

寄付に関するお申し込みはホームページをご覧ください。
<https://keionkyo.org/sanjoy/>

軽音協の活動は皆様の寄付金で成り立っています

当協会の理念や活動内容にご賛同いただける方々のご支援をお待ちしております

軽音楽部は バランスの取れた 部活動です

軽音楽部は高校生の間で人気の高い部活動です。軽音楽部というと「音楽が好き」や「楽器演奏が楽しい」といった点が注目されますが、それだけではありません。バンドに大切なのは**コミュニケーション**と**チームワーク**と**クリエイティビティー**です。軽音楽部は社会に出てから必要とされるこれらの能力を音楽やバンド活動を通して学ぶことができる部活動です。

コミュニケーション力を育む



バンド活動はメンバー同士で相談しないと何も進みません。軽音楽部の活動を通して、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞くことで「コミュニケーション力」や「協調性」を育むことができます。

チームワークを学ぶ



お互いの意見をぶつけ合い、お互いのことを知ることで団結力と仲間意識が生まれます。軽音楽部は文化部でありながら、運動部のような「チームワーク」と「責任感」を学ぶことができます。

クリエイティビティーを磨く



オリジナル曲を作るのはもちろんのこと、既存曲をコピーする際にも自分たちならではの工夫やアイデアを凝らして楽曲を組み立てていくことで、「クリエイティビティー」を磨くことができます。

協会の主な活動と寄付金の使途

出版物の発行

- ・生徒向け「デジレコ・ジュニア」の発行（年間7回）
- ・顧問向け「顧問通信」の発行（年間7回）
- ・大会プログラムの発行（年間16冊）

ガイドラインの提案

- ・大会審査基準／大会審査員
- ・外部指導員（コーチ）
- ・標準的な機材の提案

技術指導

- ・パートごとの実技指導・アンサンブル指導
- ・音楽理論や作詞／作曲講座
- ・音作り、楽器&電気知識、音響の指導

合同演奏会・発表会の企画

- ・複数校の合同演奏会のコーディネート
- ・公共施設、地域行事などでの演奏会の企画
- ・音楽合宿のできるホテルの紹介

講評・審査員・外部コーチ

- ・合同演奏会のコメンテーター
- ・大会などのコンテストの審査員
- ・外部指導員（コーチ）の紹介 *予定

他校・他県の情報

- ・顧問研修会&交流会
- ・新任顧問のための初級技術講習会
- ・県を跨ぐ顧問交流のコーディネート

機材選び

- ・予算に応じた楽器や機材選びのアドバイス
- ・騒音問題を解決する「オール電化」の提案
- ・サイレント・スタジオのデモンストレーション

販売／リース

- ・予算に応じた楽器や機材選びのアドバイス
- ・少ない初期投資で機材を揃えられるリース
- ・楽器や機材の販売、説明、メンテナンス

4048	三鷹市	大成高等学校 キター部	4129	横浜市	神奈川県立白山高等学校 キター部	6866	藤沢市	聖園女学院高等学校 軽音楽部	5166	我孫子市	千葉県立我孫子高等学校 軽音楽部
4845	三鷹市	東京都立三鷹中等教育学校 音楽部・軽音楽部	4025	横浜市	神奈川県立藤が丘高等学校 軽音楽部	4135	藤沢市	藤沢翔陽高等学校 軽音楽部	5167	我孫子市	千葉県立我孫子高等学校 軽音楽部
3983	三鷹市	法政大学高等学校 音楽部	4150	横浜市	横浜華人高等学校 軽音楽部	6896	藤沢市	藤沢国際高等学校 軽音楽部	5168	我孫子市	中央学院高等学校 軽音楽部
4034	三鷹市	東京都立七尾高等学校 軽音楽部	6959	横浜市	神奈川県立鎌倉高等学校 フォークソング部	4126	藤沢市	日本大学藤沢高等学校 音楽部	5170	鎌倉市	千葉県立鎌倉高等学校 軽音楽部
4777	三鷹市	三鷹市立高等学校 軽音楽部	6959	横浜市	神奈川県立鎌倉高等学校 軽音楽部	4127	藤沢市	藤沢市立高等学校 軽音楽部	5171	鎌倉市	千葉県立鎌倉高等学校 軽音楽部
4861	小金井市	国際基督教大学高等学校 Rock 部	6829	横浜市	山手学院高等学校 軽音楽部	4132	平塚市	神奈川県立平塚工科高等学校 音楽部	5176	鎌倉市	千葉県立西高等学校 キター部
4858	小金井市	東京都立小金井北高等学校 フォークソング部	6775	横浜市	神奈川県立横浜栄高等学校 軽音楽部	6906	平塚市	神奈川県立平塚南高等学校 軽音楽部	5178	君津市	千葉県立君津高等学校 キター部
4860	小平市	東京都立多摩科学技術高等学校 軽音楽部	4089	横浜市	神奈川県立小金井高等学校 軽音楽部	4133	平塚市	神奈川県立平塚商業高等学校 軽音楽部	5180	君津市	千葉県立君津高等学校 キター部
3989	小平市	錦城高等学校 軽音楽部	6899	横浜市	神奈川県立北陽高等学校 軽音楽部	4134	平塚市	神奈川県立平塚風見高等学校 軽音楽部	5182	香取郡	千葉県立香取高等学校 軽音楽部
4015	小平市	東京都立小平高等学校 軽音楽部	4107	横浜市	秀英高等学校 軽音楽部	6908	平塚市	神奈川県立平塚南高等学校 軽音楽部	5183	香取郡	千葉県立香取高等学校 軽音楽部
3994	小平市	東京都立小平高等学校 軽音楽部	4147	横浜市	神奈川県立横浜緑蔭高等学校 軽音楽部	6908	平塚市	神奈川県立平塚南高等学校 軽音楽部	5184	香取郡	千葉県立香取高等学校 軽音楽部
4865	小平市	東京都立小平高等学校 軽音楽部	6797	横浜市	神奈川県立横浜緑蔭高等学校 軽音楽部	6908	平塚市	神奈川県立平塚南高等学校 軽音楽部	5185	香取郡	千葉県立香取高等学校 軽音楽部
4026	昭島市	東京都立昭島高等学校 軽音楽部	4110	横浜市	神奈川県立松岡高等学校 軽音楽部	4123	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 音楽部	5187	佐倉市	千葉県立佐倉高等学校 軽音楽部
4784	新府市	東京都立新島高等学校 軽音楽部	9488	横浜市	桐蔭学園高等学校 軽音楽部	4163	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 軽音楽部	5188	佐倉市	千葉県立佐倉高等学校 軽音楽部
4785	津浦町	東京都立津浦高等学校 軽音楽部	9453	横浜市	桐蔭学園中学校 軽音楽部	4165	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 MA 部	5193	山武市	千葉県立東高等学校 フォークソング部
4012	津浦町	東京都立津浦高等学校 民族音楽部	4142	横浜市	神奈川県立元石川高等学校 軽音楽部	4164	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 フォークソング部	5198	山武市	千葉県立東高等学校 フォークソング部
4933	西多摩郡	東京都立瑞穂豊高等学校 軽音楽部	6831	横浜市	神奈川県立元石川高等学校 軽音楽部	6668	さいたま市	開智高等学校 キター部	5196	四街道市	千葉県立四街道高等学校 軽音楽部
4936	西多摩郡	東京都立田無高等学校 軽音楽部	6894	横浜市	神奈川県立元石川高等学校 軽音楽部	4167	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 軽音楽部	5201	市原市	千葉県立市原高等学校 軽音楽部
3992	西多摩郡	東京都立田無高等学校 現代音楽部	6106	横浜市	神奈川県立元石川高等学校 軽音楽部	4168	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 軽音楽部	5202	市原市	千葉県立市原高等学校 音楽部
4937	西多摩郡	東京都立田無高等学校 軽音楽部	6765	横浜市	神奈川県立元石川高等学校 軽音楽部	4169	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 軽音楽部	5204	市原市	千葉県立市原高等学校 音楽部
4938	西多摩郡	東京都立田無高等学校 軽音楽部	6846	横浜市	神奈川県立元石川高等学校 軽音楽部	4156	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 軽音楽部	5216	市原市	千葉県立市原高等学校 音楽部
4903	青梅市	東京都立青梅総合高等学校 軽音楽部	6874	横浜市	神奈川県立元石川高等学校 軽音楽部	4157	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 軽音楽部	5221	市原市	千葉県立市原高等学校 軽音楽部
4009	青梅市	東京都立多摩高等学校 軽音楽部	6759	東京都	神奈川県立元石川高等学校 軽音楽部	4161	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 軽音楽部	5218	市原市	千葉県立市原高等学校 軽音楽部
4973	多摩市	大妻多摩高等学校 軽音楽部	6762	東京都	神奈川県立元石川高等学校 軽音楽部	4160	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 軽音楽部	5208	市原市	千葉県立市原高等学校 音楽部
4972	多摩市	東京都立大妻高等学校 軽音楽部	6763	東京都	神奈川県立元石川高等学校 軽音楽部	4162	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 軽音楽部	5207	市原市	千葉県立市原高等学校 軽音楽部
4034	大島町	東京都立大島南高等学校 音楽部	6832	横浜市	白鶴高等学校 軽音楽部	6832	横浜市	白鶴高等学校 軽音楽部	5217	市原市	千葉県立市原高等学校 軽音楽部
3989	町田市	東京都立町田高等学校 軽音楽部	4082	伊豆市	神奈川県立伊豆高等学校 軽音楽部	4153	さいたま市	埼玉県立大宮高等学校 軽音楽部	5220	川崎市	千葉県立川崎高等学校 軽音楽部
4007	町田市	東京都立川崎高等学校 軽音楽部	4082	伊豆市	神奈川県立伊豆高等学校 軽音楽部	4155	さいたま市	埼玉県立大宮高等学校 軽音楽部	5215	川崎市	千葉県立川崎高等学校 軽音楽部
5005	町田市	東京都立町田工業高等学校 キター部	6768	横浜須賀野町	横浜学院高等学校 軽音楽部	4236	さいたま市	大宮開成高等学校 軽音楽部	5219	川崎市	和洋国府女子中学校高等学校 軽音楽部
5003	町田市	東京都立町田高等学校 軽音楽部	6771	横浜須賀野町	横浜学院高等学校 Play&Produce 部	4158	さいたま市	埼玉県立いすみ高等学校 軽音楽部	5212	習志野市	千葉県立習志野高等学校 軽音楽部
5007	町田市	東京都立町田総合高等学校 軽音楽部	4140	横浜須賀野町	三浦学院高等学校 軽音楽部	4159	さいたま市	埼玉県立野島高等学校 軽音楽部	5234	芦荻市	千葉県立芦荻高等学校 軽音楽部
5006	町田市	東京都立野津田高等学校 軽音楽部	4108	横浜須賀野町	湘南学院高等学校 キター部	4237	さいたま市	沼津高等学校 軽音楽部	5227	川崎市	千葉県立川崎高等学校 軽音楽部
5012	町田市	和光高等学校 ロック研究部	6769	横浜市	神奈川県立横浜工業高等学校 軽音楽部	4166	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 軽音楽部	5228	川崎市	千葉県立川崎高等学校 軽音楽部
5013	鎌倉市	鎌倉市立高等学校 サンドネットキター部	6106	横浜市	神奈川県立横浜工業高等学校 軽音楽部	4167	さいたま市	埼玉県立浦和高等学校 軽音楽部	5202	川崎市	千葉県立川崎高等学校 音楽部
5015	調布市	東京都立調布高等学校 音楽部	6773	横浜市	神奈川県立横浜工業高等学校 現代音楽部	4154	さいたま市	埼玉県立大宮高等学校 軽音楽部	5229	川崎市	千葉県立川崎高等学校 軽音楽部
4024	調布市	東京都立調布高等学校 軽音楽部	6800	横浜須賀野町	神奈川県立横浜工業高等学校 音楽部	6724	さいたま市	埼玉県立大宮中央高等学校 単位制定時音楽部	5236	川崎市	専修大学付属高等学校 フォークソング部
5018	東大宮市	東京都立大宮高等学校 キター部	6883	横浜須賀野町	神奈川県立横浜工業高等学校 軽音楽部	6659	さいたま市	埼玉県立大宮高等学校 音楽部	5237	成田市	千葉県立成田高等学校 フォークソング部
5017	東大宮市	東京都立大宮高等学校 軽音楽部	6888	横浜須賀野町	神奈川県立横浜工業高等学校 軽音楽部	6660	さいたま市	埼玉県立大宮高等学校 音楽部	5238	成田市	千葉県立成田高等学校 キター部
5020	東大宮市	東京都立大宮高等学校 軽音楽部	6889	横浜須賀野町	神奈川県立横浜工業高等学校 軽音楽部	4241	さいたま市	埼玉県立大宮高等学校 軽音楽部	5240	成田市	千葉県立成田高等学校 軽音楽部
5021	東大宮市	東京都立大宮高等学校 軽音楽部	4179	海老名市	神奈川県立海老名高等学校 フォークソング部	4168	さいたま市	埼玉県立大宮高等学校 軽音楽部	5239	成田市	千葉県立成田高等学校 軽音楽部
5023	東大宮市	東京都立大宮高等学校 軽音楽部	4022	海老名市	神奈川県立海老名高等学校 フォークソング部	4240	さいたま市	埼玉県立大宮高等学校 軽音楽部	5242	千葉市	千葉県立千葉高等学校 軽音楽部
5024	東大宮市	東京都立大宮高等学校 軽音楽部	4179	海老名市	神奈川県立海老名高等学校 フォークソング部	4240	さいたま市	埼玉県立大宮高等学校 軽音楽部	5248	千葉市	千葉県立千葉高等学校 軽音楽部
5022	東大宮市	東京都立大宮高等学校 軽音楽部	6766	鎌倉市	栄光学園高等学校 Rock Music 愛好会	4207	越谷市	埼玉県立越谷高等学校 軽音楽部	5244	千葉市	千葉県立千葉高等学校 リズムアンサンブル部
5023	東大宮市	東京都立大宮高等学校 フォークソング部	6803	鎌倉市	鎌倉学園高等学校 フォークソング部	4209	越谷市	埼玉県立越谷高等学校 軽音楽部	5245	千葉市	千葉県立千葉高等学校 フォークソング部
4029	日野市	東京都立日野高等学校 軽音楽部	6834	鎌倉市	神奈川県立鎌倉高等学校 日歌会	4210	越谷市	埼玉県立越谷高等学校 軽音楽部	5246	千葉市	千葉県立千葉高等学校 軽音楽部
5025	日野市	東京都立日野高等学校 軽音楽部	6803	鎌倉市	神奈川県立鎌倉高等学校 軽音楽部	4211	越谷市	埼玉県立越谷高等学校 軽音楽部	5253	千葉市	千葉県立千葉高等学校 キター部
5045	八王子市	頼朝高等学校 軽音楽部	6849	鎌倉市	神奈川県立鎌倉高等学校 軽音楽部	4208	越谷市	埼玉県立越谷高等学校 軽音楽部	5251	千葉市	千葉県立千葉高等学校 軽音楽部
5046	八王子市	頼朝高等学校 サウンドソサエティ部	6849	鎌倉市	神奈川県立鎌倉高等学校 軽音楽部	4208	越谷市	埼玉県立越谷高等学校 軽音楽部	5251	千葉市	千葉県立千葉高等学校 軽音楽部
3982	八王子市	三学院女学院高等学校 軽音楽部	6862	鎌倉市	神奈川県立鎌倉高等学校 軽音楽部	4177	川崎市	埼玉県立川崎高等学校 軽音楽部	5256	川崎市	千葉県立川崎高等学校 音楽部
4047	八王子市	聖ハロウ学園高等学校 軽音楽部	6807	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校 軽音楽部	4258	加須市	埼玉県立加須高等学校 キター部	5257	千葉市	千葉県立千葉高等学校 軽音楽部
5041	八王子市	帝京八王子高等学校 軽音楽部	4120	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校 軽音楽部	4204	加須市	埼玉県立加須高等学校 軽音楽部	5258	千葉市	千葉県立千葉高等学校 軽音楽部
5044	八王子市	東京工業専門学校 軽音楽部	4121	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校 軽音楽部	4217	吉川市	埼玉県立吉川高等学校 軽音楽部	5262	千葉市	千葉県立千葉高等学校 軽音楽部
5042	八王子市	東京純心女子高等学校 軽音楽部	6893	茅ヶ崎市	神奈川県立茅ヶ崎高等学校 軽音楽部	4220	久喜市	埼玉県立久喜高等学校 軽音楽部	5263	千葉市	千葉県立千葉高等学校 軽音楽部
5033	八王子市	東京都立松が谷高等学校 軽音楽部	6821	厚木市	厚木中央高等学校 軽音楽部	4221	久喜市	埼玉県立久喜高等学校 軽音楽部	5270	千葉市	茨谷学院高等学校 キター部
5021	八王子市	東京都立王子高等学校 軽音楽部	6819	厚木市	神奈川県立厚木高等学校 軽音楽部	4226	久喜市	埼玉県立久喜高等学校 軽音楽部	5267	千葉市	昭和学院高等学校 軽音楽部
4027	八王子市	東京都立王子高等学校 軽音楽部	6819	厚木市	神奈川県立厚木高等学校 軽音楽部	4191	久喜市	埼玉県立久喜高等学校 軽音楽部	5267	千葉市	千葉県立千葉高等学校 軽音楽部
5032	八王子市	東京都立王子高等学校 軽音楽部	6820	厚木市	神奈川県立厚木高等学校 軽音楽部	4249	茨城市	埼玉県立茨城高等学校 軽音楽部	5268	千葉市	千葉県立千葉高等学校 軽音楽部
4066	八王子市	八王子学園八王子高等学校 キター部	4077	厚木市	神奈川県立厚木高等学校 軽音楽部	4254	茨城市	埼玉県立茨城高等学校 フォークソング部	5272	千葉市	千葉県立千葉高等学校 軽音楽部
4067	八王子市	八王子実践高等学校 軽音楽部	4078	厚木市	神奈川県立厚木高等学校 軽音楽部	4199	熊谷市	埼玉県立熊谷高等学校 フォークソング部	5280	熊谷市	千葉県立熊谷高等学校 軽音楽部
5064	府中市	東京都立農業高等学校 サウンド部	6822	厚木市	神奈川県立厚木高等学校 軽音楽部	4198	熊谷市	埼玉県立熊谷高等学校 軽音楽部	5273	熊谷市	千葉県立熊谷高等学校 軽音楽部
4031	府中市	東京都立府中工業高等学校 軽音楽部	6808	厚木市	神奈川県立厚木高等学校 軽音楽部	4200	熊谷市	埼玉県立熊谷高等学校 軽音楽部	5274	熊谷市	千葉県立熊谷高等学校 軽音楽部
3986	府中市	東京都立府中高等学校 ボールソング部	6809	厚木市	神奈川県立厚木高等学校 軽音楽部	4175	熊谷市	埼玉県立熊谷高等学校 軽音楽部	5274	熊谷市	千葉県立熊谷高等学校 軽音楽部
4036	府中市	東京都立府中高等学校 軽音楽部	4105	厚木市	神奈川県立厚木高等学校 軽音楽部	4202	熊谷市	埼玉県立熊谷高等学校 軽音楽部	5285	熊谷市	千葉県立熊谷高等学校 軽音楽部
5063	府中市	東京都立府中高等学校 軽音楽部	4100	厚木市	神奈川県立厚木高等学校 軽音楽部	4180	津島市	埼玉県立津島高等学校 キター部	5283	熊谷市	熊谷市立熊谷高等学校 軽音楽部
3987	府中市	明星高等学校 軽音楽部	6909	三浦市	三浦初声高等学校 軽音楽部	6685	津島市	埼玉県立津島高等学校 キター部	5285	熊谷市	熊谷市立熊谷高等学校 軽音楽部
5062	武蔵村山市	拓殖大学第一高等学校 フォークソング部	6828	三浦市	神奈川県立三浦高等学校 軽音楽部	4248	大塚市	山形国際高等学校 軽音楽部	5286	熊谷市	東葉高等学校 軽音楽部
5066	武蔵村山市	東京都立上水高等学校 軽音楽部	6760	小田原市	旭丘高等学校 軽音楽部	4152	大塚市	筑波大学附属高等学校 アンサンブル部	5290	鹿沼市	飯塚大学(日)音楽部 軽音楽部
3978	武蔵村山市	東京都立武蔵村山高等学校 軽音楽部	6836	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 軽音楽部	4215	三郷市	埼玉県立三郷高等学校 軽音楽部	5289	鹿沼市	千葉県立鹿沼高等学校 キター部
5025	武蔵野市	吉祥女子高等学校 音楽部 フォークソング部	4077	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 軽音楽部	4216	三郷市	埼玉県立三郷高等学校 軽音楽部	5292	鹿沼市	千葉県立鹿沼高等学校 軽音楽部
4035	武蔵野市	東京都立武蔵野高等学校 軽音楽部	4114	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 軽音楽部	6883	志木市	埼玉県立志木高等学校 軽音楽部	5311	千葉市	芝浦工業大学柏市高等学校 軽音楽部
5072	武蔵野市	練馬女子高等学校 軽音楽部	6880	小田原市	神奈川県立小田原高等学校 軽音楽部	4219	春日部市	埼玉県立春日部高等学校 軽音楽部	5308	千葉市	千葉県立春日部高等学校 軽音楽部
4032	福生市	東京都立多摩工業高等学校 軽音楽部	6855	栗野市	神奈川県立栗野高等学校 サウンド研究部	4218	春日部市	埼玉県立春日部高等学校 軽音楽部	5306	千葉市	千葉県立春日部高等学校 キター部
4026	福生市	東京都立福生高等学校 ロック部	4131	栗野市	神奈川県立栗野高等学校 軽音楽部	6695	春日部市	埼玉県立春日部高等学校 キター部	5301	千葉市	千葉県立春日部高等学校 軽音楽部
4045	立川市	昭和第一高等学校 軽音楽部	6856	栗野市	神奈川県立栗野高等学校 軽音楽部	4260	春日部市	春日部共立高等学校 軽音楽部	5303	千葉市	千葉県立春日部高等学校 軽音楽部
5141	立川市	東京都立立川高等学校 軽音楽部	6857	蓮子市	神奈川県立蓮子高等学校 フォークソング部	4190	所沢市	埼玉県立所沢高等学校 フォーク部	5312	千葉市	二松学院大学附属中学校 高等学校 軽音楽部
4028	立川市	立川市立高等学校 軽音楽部	4103	所沢市	神奈川県立所沢高等学校 軽音楽部	4210	所沢市	埼玉県立所沢高等学校 フォークソング部	5317	八王子市	千葉県立八王子高等学校 軽音楽部
5142	立川市	立川女子高等学校 軽音楽部	4113	蓮子市	神奈川県立蓮子高等学校 軽音楽部	4183	新座市	埼玉県立新座高等学校 軽音楽部	5316	八王子市	千葉県立八王子高等学校 軽音楽部
■神奈川県			4093	川崎市	神奈川県立川崎高等学校 軽音楽部	4244	新座市	埼玉県立新座高等学校 軽音楽部	5317	八王子市	千葉県立八王子高等学校 軽音楽部
6780	横浜市	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 軽音楽部	4084	川崎市	川崎市立幸高等学校 軽音楽部	9482	新座市	立教新座高等学校 音楽部	5321	八王子市	千葉県立八王子高等学校 軽音楽部
6786	横浜市	横浜市立東高等学校 軽音楽部	6873	川崎市	川崎市立川崎総合科学高等学校 軽音楽部	4245	新座市	立教新座高等学校 ジャズ研究会	5319	八王子市	千葉県立八王子高等学校 軽音楽部
6813	横浜市	横浜学院高等学校 軽音楽部	6871	川崎市	川崎市立幸高等学校 軽音楽部	4202	深谷市	埼玉県立深谷高等学校 フォーク部	5320	八王子市	千葉県立八王子高等学校 フォークソング部
6800	横浜市	横浜市立鶴見高等学校 軽音楽部	4116	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4201	深谷市	埼玉県立深谷高等学校 軽音楽部	5324	茂原市	千葉県立茂原高等学校 フォークソング部
6819	横浜市	横浜市立鶴見高等学校 軽音楽部	4093	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4216	深谷市	埼玉県立深谷高等学校 軽音楽部	5329	茂原市	千葉県立茂原高等学校 軽音楽部
6865	横浜市	聖セザリアン中学校、高等学校 軽音楽部	4117	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4257	深谷市	立教深谷高等学校 軽音楽部	5329	茂原市	千葉県立茂原高等学校 軽音楽部
6900	横浜市	白鵠女子高等学校 軽音楽部	6872	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4185	川崎市	川崎市立川崎高等学校(定期時) 音楽部	5330	茂原市	茨城北高等学校 軽音楽サークル
6911	横浜市	法政大学女子高等学校 軽音楽部	6756	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4184	川崎市	川崎市立川崎高等学校 軽音楽部	5335	水戸市	聖隷国際高等学校 音楽部
4149	横浜市	横浜創英中学校、高等学校 軽音楽部	6823	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4186	川崎市	川崎市立川崎高等学校 フォーク部	5332	水戸市	千葉県立水戸高等学校 軽音楽部
6850	横浜市	神奈川県立横浜高等学校 軽音楽部	4112	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	6715	川崎市	埼玉県立川崎高等学校 キター部	5336	水戸市	拓殖大学附属高等学校 軽音楽部
4148	横浜市	神奈川県立横浜高等学校 ボランティア部	6863	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4187	川崎市	埼玉県立川崎高等学校 キター部	5333	水戸市	大妻多摩高等学校 軽音楽部
6844	横浜市	神奈川県立横浜高等学校 軽音楽部	4091	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4247	川崎市	山手学院高等学校 軽音楽部	5340	野田市	おむすび高等学校 軽音楽部
6851	横浜市	神奈川県立横浜高等学校 軽音楽部	4119	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4246	川崎市	川崎市立川崎高等学校 軽音楽部	5337	野田市	千葉県立野田高等学校 軽音楽部
6862	横浜市	神奈川県立横浜高等学校 軽音楽部	4144	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4235	川崎市	川崎市立川崎高等学校 軽音楽部	5338	野田市	千葉県立野田高等学校 軽音楽部
6876	横浜市	横浜女子中学校、高等学校 軽音楽部	4128	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4172	川口市	埼玉県立川口工業高等学校 軽音楽部	5339	野田市	千葉県立野田高等学校 軽音楽部
4151	横浜市	神奈川県立横浜平沼高等学校 軽音楽部	6834	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4170	川口市	埼玉県立川口工業高等学校 フォークソング部	5344	流山市	千葉県立流山市おたのび高等学校 軽音楽部
6758	横浜市	フェリス学院中学校、高等学校 コミュニケーション部	6847	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4173	川口市	埼玉県立川口工業高等学校 軽音楽部	5345	流山市	千葉県立流山市高等学校 軽音楽部
4141	横浜市	横浜市みなと総合高等学校 軽音楽部	6869	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4171	川口市	埼玉県立川口工業高等学校 軽音楽部	5343	流山市	千葉県立流山市高等学校 軽音楽部
6793	横浜市	横浜雙葉中学校、高等学校 軽音楽部	6870	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4212	朝加市	埼玉県立朝加高等学校 軽音楽部	5357	つくば市	つくば国際大学 軽音楽部
6797	横浜市	東京都立横浜高等学校 軽音楽部	6814	川崎市	神奈川県立鶴見高等学校 軽音楽部	4211					

5446 土浦市 茨城県立土浦第一高等学校 軽音楽同好会
5447 土浦市 茨城県立土浦第三高等学校 音楽部
5452 土浦市 常総学院高等学校 軽音楽部
5454 土浦市 土浦日本大学高等学校 音楽部
5451 土浦市 土浦日本大学中等教育学校 バンド部
5456 東京都 茨城県立大洗高等学校 軽音楽同好会
5459 那珂市 茨城県立水戸農高等学校 軽音楽同好会
5466 那珂市 茨城県立大洗高等学校 フォークソング部
5467 那珂市 茨城県立大洗高等学校 軽音楽同好会
5460 那珂市 茨城県立大洗高等学校 キター部
5463 那珂市 茨城県立大洗第二高等学校 キター部
5468 那珂市 明秀学園立大洗高等学校 フォークソング同好会
5474 那珂市 茨城県立大洗第二高等学校 音楽部
5475 那珂市 茨城県立大洗第二高等学校 軽音楽部
5479 那珂市 茨城県立大洗第二高等学校 軽音楽部
5476 那珂市 茨城県立大洗第二高等学校 軽音楽部

■栃木県

5481 宇都宮市 宇都宮短期大学附属高等学校 軽音楽部
5492 宇都宮市 栃木県立宇都宮女子高等学校 軽音楽部
5484 宇都宮市 栃木県立宇都宮高等学校 軽音楽同好会
5487 宇都宮市 栃木県立宇都宮高等学校 軽音楽部
5490 宇都宮市 栃木県立宇都宮高等学校 軽音楽部
5498 宇都宮市 栃木県立宇都宮高等学校 キター部
5506 那須市 栃木県立那須高等学校 軽音楽同好会
9507 小山市 小山工業高等専門学校 軽音楽部
5509 小山市 栃木県立小山城南高等学校 軽音楽部
5508 小山市 栃木県立小山北高等学校 軽音楽部
5524 小山市 足利短期大学附属高等学校 軽音楽部
5517 小山市 栃木県立立派高等学校 フォークソング部
5518 那須市 栃木県立立派高等学校 フォークソング部
5519 那須市 栃木県立立派高等学校 フォークソング部
5523 那須市 白滝大学足利高等学校 Music Art Club
5527 大田原市 栃木県立大田原女子高等学校 フォークソング部
5532 栃木市 栃木県立宇都宮高等学校 軽音楽部
5529 栃木市 栃木県立栃木工業高等学校 キター部
5516 栃木市 栃木県立立派高等学校 軽音楽部
5540 栃木市 栃木県立立派高等学校 軽音楽同好会
5547 日光市 栃木県立今市工業高等学校 軽音楽部
5546 日光市 栃木県立今市高等学校 キター部

■群馬県

5557 安中市 群馬県立安中高等学校 軽音楽部
5562 伊勢崎市 群馬県立伊勢崎高等学校 軽音楽部
5566 伊勢崎市 群馬県立伊勢崎高等学校 軽音楽部
5570 桐生市 群馬県立桐生高等学校 軽音楽部
5576 桐生市 群馬県立桐生高等学校 軽音楽部
5577 妻妻郡 群馬県立妻妻中央高等学校 音楽部
5579 妻妻郡 群馬県立妻妻中央高等学校 音楽部
5583 高崎市 群馬県立高崎工業高等学校 軽音楽部
5589 高崎市 群馬県立高崎東高等学校 軽音楽同好会
5584 高崎市 群馬県立高崎東高等学校 軽音楽部
5590 高崎市 群馬県立高崎東高等学校 軽音楽部
5590 高崎市 群馬県立高崎東高等学校 軽音楽部
5592 高崎市 群馬県立高崎東高等学校 軽音楽部
5597 佐波郡 群馬県立佐波高等学校 軽音楽部
5599 渋川市 群馬県立渋川工業高等学校 軽音楽部
5602 沼田市 群馬県立沼田工業高等学校 軽音楽部
5604 沼田市 群馬県立沼田女子高等学校 軽音楽部
5610 前橋市 群馬県立前橋高等学校 軽音楽部
5614 前橋市 群馬県立前橋高等学校 軽音楽部
5617 前橋市 群馬県立前橋高等学校 軽音楽部
5624 太田市 群馬県立新田高等学校 軽音楽部
5621 太田市 群馬県立太田女子高等学校 軽音楽部
5623 太田市 群馬県立太田東高等学校 軽音楽部
5626 太田市 常盤高等学校 軽音楽部
5630 藤岡市 群馬県立藤岡高等学校 軽音楽部
5631 藤岡市 群馬県立藤岡高等学校 軽音楽部
5634 邑楽郡 群馬県立邑楽高等学校 軽音楽部

■新潟県

6925 加茂市 加茂短期大学附属高等学校 軽音楽部
6945 佐渡市 新潟県立佐渡高等学校 音楽部
6946 佐渡市 新潟県立佐渡総合高等学校 音楽部
6950 三条市 新潟県立三条高等学校 軽音楽同好会
6951 三条市 新潟県立三条高等学校 軽音楽部
6952 糸魚川市 新潟県立糸魚川高等学校 軽音楽部
6954 糸魚川市 新潟県立糸魚川高等学校 軽音楽部
6959 十日町市 新潟県立十日町総合高等学校 音楽部
6932 上越市 新潟県立上越高等学校 軽音楽同好会
6939 上越市 新潟県立上越高等学校 軽音楽部
6942 上越市 新潟県立上越高等学校 軽音楽部
6941 上越市 新潟県立上越高等学校 軽音楽部
6943 上越市 新潟県立上越高等学校 軽音楽部
6961 上越市 新潟県立上越総合技術専門学校 軽音楽同好会
6982 新潟市 新潟県立新潟工業高等学校 音楽部
6930 新潟市 新潟県立巻高等学校 キター部
6965 新潟市 新潟県立新潟工業高等学校 音楽部
6947 新潟市 新潟県立新潟工業高等学校 軽音楽同好会
6973 新潟市 新潟県立新潟女子高等学校 軽音楽部
6977 新潟市 新潟県立新潟中央高等学校 キター部
6970 新潟市 新潟県立新潟中央高等学校 キター部
7025 新潟市 新潟県立新潟中央高等学校 音楽部
7024 新潟市 新潟県立新潟中央高等学校 キター部
6988 新潟市 新潟県立新潟中央高等学校 キター部
6989 新潟市 新潟県立新潟中央高等学校 キター部
6938 新潟市 新潟県立新潟中央高等学校 キター部
6998 村上市 新潟県立村上高等学校 軽音楽部
7004 長岡市 新潟県立長岡高等学校 軽音楽部
7006 長岡市 新潟県立長岡高等学校 軽音楽同好会
9505 長岡市 長岡工業専門学校 軽音楽部
7022 南砺市 新潟県立立山高等学校 軽音楽同好会
7011 柏崎市 新潟県立柏崎高等学校 フォークソング同好会
7019 柏崎市 新潟県立柏崎高等学校 軽音楽同好会
6962 妙高市 新潟県立新井高等学校 コミュニケーション部

■岐阜県

7335 可児市 岐阜県立可児高等学校 軽音楽部
7327 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7362 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7390 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7395 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
9510 本巣市 岐阜県立本巣高等学校 軽音楽部
7384 養老郡 岐阜県立養老高等学校 軽音楽部
7416 伊豆の國市 静岡県立伊豆中央高等学校 軽音楽部
7426 掛川市 静岡県立掛川工業高等学校 キター部
7430 菊川市 静岡県立菊川高等学校 軽音楽部
7450 御前崎市 静岡県立御前崎高等学校 軽音楽部
7438 御殿場市 静岡県立御殿場高等学校 軽音楽部
7439 御殿場市 静岡県立御殿場高等学校 軽音楽部
7515 三島市 日本大学三島高等学校 軽音楽部
7424 沼津市 加藤学院高等学校 フォークソング部
7434 沼津市 沼津工業専門学校 軽音楽部
9511 沼津市 沼津工業専門学校 軽音楽同好会
7456 沼津市 沼津中央高等学校 軽音楽部
7451 沼津市 静岡県立沼津工業高等学校 軽音楽部
7411 藤原郡 静岡県立藤原高等学校 (軽音)
7487 静岡市 静岡県立静岡高等学校 軽音楽部
7469 静岡市 清水国際高等学校 軽音楽部
9511 藤枝市 静岡県立藤枝高等学校 キター部
7430 浜松市 静岡県立浜松高等学校 軽音楽部
7456 浜松市 クラーク記念国際高等学校 軽音楽部
7536 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7542 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7525 浜松市 浜松開誠館高等学校 軽音楽部
7527 浜松市 浜松市立高等学校 軽音楽部
7534 浜松市 浜松市立高等学校 軽音楽部
7473 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7531 浜松市 静岡県立浜松工業高等学校 キター部
9528 富士宮市 静岡県立富士宮高等学校 軽音楽部
7431 富士市 静岡県立吉田高等学校 軽音楽部
7550 富士市 静岡県立富士高等学校 軽音楽部

■静岡県

7416 伊豆の國市 静岡県立伊豆中央高等学校 軽音楽部
7426 掛川市 静岡県立掛川工業高等学校 キター部
7430 菊川市 静岡県立菊川高等学校 軽音楽部
7450 御前崎市 静岡県立御前崎高等学校 軽音楽部
7438 御殿場市 静岡県立御殿場高等学校 軽音楽部
7439 御殿場市 静岡県立御殿場高等学校 軽音楽部
7515 三島市 日本大学三島高等学校 軽音楽部
7424 沼津市 加藤学院高等学校 フォークソング部
7434 沼津市 沼津工業専門学校 軽音楽部
9511 沼津市 沼津工業専門学校 軽音楽同好会
7456 沼津市 沼津中央高等学校 軽音楽部
7451 沼津市 静岡県立沼津工業高等学校 軽音楽部
7411 藤原郡 静岡県立藤原高等学校 (軽音)
7487 静岡市 静岡県立静岡高等学校 軽音楽部
7469 静岡市 清水国際高等学校 軽音楽部
9511 藤枝市 静岡県立藤枝高等学校 キター部
7430 浜松市 静岡県立浜松高等学校 軽音楽部
7456 浜松市 クラーク記念国際高等学校 軽音楽部
7536 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7542 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7525 浜松市 浜松開誠館高等学校 軽音楽部
7527 浜松市 浜松市立高等学校 軽音楽部
7534 浜松市 浜松市立高等学校 軽音楽部
7473 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7531 浜松市 静岡県立浜松工業高等学校 キター部
9528 富士宮市 静岡県立富士宮高等学校 軽音楽部
7431 富士市 静岡県立吉田高等学校 軽音楽部
7550 富士市 静岡県立富士高等学校 軽音楽部

■愛知県

7577 安城市 安城学園高等学校 軽音楽部
7635 一宮市 山梨県立山梨高等学校 軽音楽部
7556 稲沢市 山梨県立山梨高等学校 軽音楽部
7593 岡崎市 山梨県立山梨高等学校 軽音楽部
7655 岡崎市 山梨県立山梨高等学校 軽音楽部
7606 刈谷市 山梨県立山梨高等学校 軽音楽部

7209 大野市 日本大学明誠高等学校 軽音楽部
7205 上野市 山梨県立上野高等学校 軽音楽部
7204 塩田市 山梨県立塩田高等学校 フォークソング部
7179 南アルプス市 山梨県立白根高等学校 軽音楽部
7213 南アルプス市 山梨県立白根高等学校 軽音楽部
7211 南アルプス市 山梨県立白根高等学校 軽音楽部
7176 南アルプス市 山梨県立白根高等学校 軽音楽部
7212 北杜市 山梨県立北杜高等学校 軽音楽部
7218 北杜市 山梨県立北杜高等学校 軽音楽部

■長野県

7297 安曇野市 長野県南安曇高等学校 軽音楽部
7306 安曇野市 長野県穂高高等学校 軽音楽部
7307 安曇野市 長野県穂高高等学校 LMC 部
7312 安曇野市 長野県穂高高等学校 軽音楽部
7234 伊那市 長野県伊那北高等学校 軽音楽部
7235 伊那市 長野県伊那北高等学校 軽音楽部
7251 伊那市 長野県伊那北高等学校 軽音楽部
7237 塩尻市 長野県塩尻高等学校 軽音楽部
7286 塩尻市 長野県塩尻高等学校 キター部
7299 岡谷市 長野県岡谷高等学校 軽音楽部
7297 岡谷市 長野県岡谷高等学校 軽音楽部
7232 下伊那郡 長野県阿智高等学校 軽音楽部
7246 茅野市 長野県茅野高等学校 軽音楽部
7323 茅野市 東海大学付属松本高等学校 音楽部
7248 阿倍野町 長野県阿倍野高等学校 軽音楽同好会
7278 阿倍野町 長野県阿倍野高等学校 軽音楽部
7236 久木市 久木総合高等学校 軽音楽部
7539 久木市 長野県久木高等学校 軽音楽部
7214 久木市 長野県久木高等学校 軽音楽部
7231 久木市 長野県久木高等学校 軽音楽部
7256 小諸市 長野県小諸高等学校 軽音楽部
7257 小諸市 長野県小諸高等学校 軽音楽部
7224 松本市 松山学園高等学校 軽音楽同好会
7229 松本市 松山学園高等学校 軽音楽部
7258 松本市 松山学園高等学校 軽音楽部
7263 松本市 松山学園高等学校 軽音楽部
7260 松本市 長野県松本北高等学校 軽音楽部
7261 松本市 長野県松本北高等学校 軽音楽部
7262 松本市 長野県松本工業高等学校 軽音楽部
7263 松本市 長野県松本工業高等学校 キター部
7264 松本市 長野県松本工業高等学校 軽音楽部
7265 松本市 長野県松本工業高等学校 FMC 部
7282 上伊那郡 長野県上伊那高等学校 軽音楽部
7311 上伊那郡 長野県上伊那高等学校 軽音楽部
7227 上伊那郡 長野県上伊那高等学校 軽音楽部
7247 上伊那郡 長野県上伊那高等学校 軽音楽部
7267 上田市 長野県上田市高等学校 現代音楽部
7268 上田市 長野県上田市高等学校 現代音楽部
7269 上田市 長野県上田市高等学校 現代音楽部
7270 上田市 長野県上田市高等学校 フォーク班
7262 上田市 長野県上田市高等学校 軽音楽部
7252 徳科郡 長野県徳科高等学校 軽音楽部
7245 諏訪郡 長野県諏訪高等学校 軽音楽部
7305 諏訪郡 長野県諏訪高等学校 バンド部
7271 諏訪郡 長野県諏訪高等学校 軽音楽部
7272 諏訪郡 長野県諏訪高等学校 軽音楽部
7273 諏訪郡 長野県諏訪高等学校 軽音楽部
7275 諏訪郡 長野県諏訪高等学校 FMC 部
7274 諏訪郡 長野県諏訪高等学校 軽音楽部
7241 千曲市 長野県千曲高等学校 軽音楽部
7242 千曲市 長野県千曲高等学校 フォークソング部
7280 大町市 長野県大町高等学校 軽音楽部
7285 中野市 長野県中野高等学校 軽音楽部
7254 中野市 長野県中野高等学校 軽音楽部
7254 中野市 長野県中野高等学校 軽音楽部
7259 長野市 長野県長野高等学校 ミュージック部
7286 長野市 長野県長野高等学校 軽音楽部
7287 長野市 長野県長野高等学校 軽音楽部
7288 長野市 長野県長野高等学校 軽音楽部
7289 長野市 長野県長野高等学校 フォークソング部
7292 長野市 長野県長野高等学校 軽音楽部
7293 長野市 長野県長野高等学校 軽音楽部
9506 長野市 長野県長野高等学校 軽音楽部
7317 長野市 長野県長野高等学校 軽音楽部
7318 長野市 長野県長野高等学校 軽音楽部
7319 長野市 長野県長野高等学校 軽音楽部
7290 長野市 長野県長野高等学校 フォークソング部
7286 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7295 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7295 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7300 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7301 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7302 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7304 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7283 北佐賀郡 長野県北佐賀高等学校 軽音楽部
7298 北佐賀郡 長野県北佐賀高等学校 軽音楽部
7299 北佐賀郡 長野県北佐賀高等学校 軽音楽部
7279 木曽郡 長野県木曽高等学校 軽音楽部
7313 木曽郡 長野県木曽高等学校 軽音楽部

■岐阜県

7287 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7288 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7289 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7292 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7293 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
9506 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7317 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7318 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7319 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7290 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 フォークソング部
7286 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7295 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7295 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7300 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7301 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7302 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7304 東海市 長野県東海高等学校 軽音楽部
7283 北佐賀郡 長野県北佐賀高等学校 軽音楽部
7298 北佐賀郡 長野県北佐賀高等学校 軽音楽部
7299 北佐賀郡 長野県北佐賀高等学校 軽音楽部
7279 木曽郡 長野県木曽高等学校 軽音楽部
7313 木曽郡 長野県木曽高等学校 軽音楽部

■岐阜県

7335 可児市 岐阜県立可児高等学校 軽音楽部
7327 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7362 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7390 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
7395 岐阜市 岐阜県立岐阜高等学校 軽音楽部
9510 本巣市 岐阜県立本巣高等学校 軽音楽部
7384 養老郡 岐阜県立養老高等学校 軽音楽部
7416 伊豆の國市 静岡県立伊豆中央高等学校 軽音楽部
7426 掛川市 静岡県立掛川工業高等学校 キター部
7430 菊川市 静岡県立菊川高等学校 軽音楽部
7450 御前崎市 静岡県立御前崎高等学校 軽音楽部
7438 御殿場市 静岡県立御殿場高等学校 軽音楽部
7439 御殿場市 静岡県立御殿場高等学校 軽音楽部
7515 三島市 日本大学三島高等学校 軽音楽部
7424 沼津市 加藤学院高等学校 フォークソング部
7434 沼津市 沼津工業専門学校 軽音楽部
9511 沼津市 沼津工業専門学校 軽音楽同好会
7456 沼津市 沼津中央高等学校 軽音楽部
7451 沼津市 静岡県立沼津工業高等学校 軽音楽部
7411 藤原郡 静岡県立藤原高等学校 (軽音)
7487 静岡市 静岡県立静岡高等学校 軽音楽部
7469 静岡市 清水国際高等学校 軽音楽部
9511 藤枝市 静岡県立藤枝高等学校 キター部
7430 浜松市 静岡県立浜松高等学校 軽音楽部
7456 浜松市 クラーク記念国際高等学校 軽音楽部
7536 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7542 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7525 浜松市 浜松開誠館高等学校 軽音楽部
7527 浜松市 浜松市立高等学校 軽音楽部
7534 浜松市 浜松市立高等学校 軽音楽部
7473 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7531 浜松市 静岡県立浜松工業高等学校 キター部
9528 富士宮市 静岡県立富士宮高等学校 軽音楽部
7431 富士市 静岡県立吉田高等学校 軽音楽部
7550 富士市 静岡県立富士高等学校 軽音楽部

■静岡県

7416 伊豆の國市 静岡県立伊豆中央高等学校 軽音楽部
7426 掛川市 静岡県立掛川工業高等学校 キター部
7430 菊川市 静岡県立菊川高等学校 軽音楽部
7450 御前崎市 静岡県立御前崎高等学校 軽音楽部
7438 御殿場市 静岡県立御殿場高等学校 軽音楽部
7439 御殿場市 静岡県立御殿場高等学校 軽音楽部
7515 三島市 日本大学三島高等学校 軽音楽部
7424 沼津市 加藤学院高等学校 フォークソング部
7434 沼津市 沼津工業専門学校 軽音楽部
9511 沼津市 沼津工業専門学校 軽音楽同好会
7456 沼津市 沼津中央高等学校 軽音楽部
7451 沼津市 静岡県立沼津工業高等学校 軽音楽部
7411 藤原郡 静岡県立藤原高等学校 (軽音)
7487 静岡市 静岡県立静岡高等学校 軽音楽部
7469 静岡市 清水国際高等学校 軽音楽部
9511 藤枝市 静岡県立藤枝高等学校 キター部
7430 浜松市 静岡県立浜松高等学校 軽音楽部
7456 浜松市 クラーク記念国際高等学校 軽音楽部
7536 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7542 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7525 浜松市 浜松開誠館高等学校 軽音楽部
7527 浜松市 浜松市立高等学校 軽音楽部
7534 浜松市 浜松市立高等学校 軽音楽部
7473 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7531 浜松市 静岡県立浜松工業高等学校 キター部
9528 富士宮市 静岡県立富士宮高等学校 軽音楽部
7431 富士市 静岡県立吉田高等学校 軽音楽部
7550 富士市 静岡県立富士高等学校 軽音楽部

■静岡県

7416 伊豆の國市 静岡県立伊豆中央高等学校 軽音楽部
7426 掛川市 静岡県立掛川工業高等学校 キター部
7430 菊川市 静岡県立菊川高等学校 軽音楽部
7450 御前崎市 静岡県立御前崎高等学校 軽音楽部
7438 御殿場市 静岡県立御殿場高等学校 軽音楽部
7439 御殿場市 静岡県立御殿場高等学校 軽音楽部
7515 三島市 日本大学三島高等学校 軽音楽部
7424 沼津市 加藤学院高等学校 フォークソング部
7434 沼津市 沼津工業専門学校 軽音楽部
9511 沼津市 沼津工業専門学校 軽音楽同好会
7456 沼津市 沼津中央高等学校 軽音楽部
7451 沼津市 静岡県立沼津工業高等学校 軽音楽部
7411 藤原郡 静岡県立藤原高等学校 (軽音)
7487 静岡市 静岡県立静岡高等学校 軽音楽部
7469 静岡市 清水国際高等学校 軽音楽部
9511 藤枝市 静岡県立藤枝高等学校 キター部
7430 浜松市 静岡県立浜松高等学校 軽音楽部
7456 浜松市 クラーク記念国際高等学校 軽音楽部
7536 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7542 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7525 浜松市 浜松開誠館高等学校 軽音楽部
7527 浜松市 浜松市立高等学校 軽音楽部
7534 浜松市 浜松市立高等学校 軽音楽部
7473 浜松市 静岡県立浜松北高等学校 軽音楽部
7531 浜松市 静岡県立浜松工業高等学校 キター部
9528 富士宮市 静岡県立富士宮高等学校 軽音楽部
7431 富士市 静岡県立吉田高等学校 軽音楽部
7550 富士市 静岡県立富士高等学校 軽音楽部

■愛知県

7577 安城市 安城学園高等学校 軽音楽部
7635 一宮市 山梨県立山梨高等学校 軽音楽部
7556 稲沢市 山梨県立山梨高等学校 軽音楽部
7593 岡崎市 山梨県立山梨高等学校 軽音楽部
7655 岡崎市 山梨県立山梨高等学校 軽音楽部
7606 刈谷市 山梨県立山梨高等学校 軽音楽部

7607 碧南市 愛知県立碧南総合高等学校 フォーク部
7642 春日井市 中部大学春日井高等学校 軽音楽部
7772 小牧市 豊橋高等学校 軽音楽部
7658 瀬戸市 愛知県立瀬戸高等学校 フォークソング部
7659 瀬戸市 愛知県立瀬戸高等学校 アコースティックギター部
7661 瀬戸市 愛知県立瀬戸高等学校 PSLMC 部
7665 瀬戸市 聖カタリナ女子高等学校 軽音楽部
7666 瀬戸市 聖カタリナ女子高等学校 軽音楽部
7667 瀬戸市 聖カタリナ女子高等学校 軽音楽部
7682 瀬戸市 愛知県立瀬戸高等学校 キター部
7684 瀬戸市 愛知県立瀬戸高等学校 キター部
7689 知多郡 日本福祉大学付属高等学校 音楽部
7710 知多郡 愛知県立知多翔洋高等学校 キター部
7679 知多郡 愛知県立知多翔洋高等学校 キター部
7589 東海市 愛知県立東海市高等学校 フォークソング部
7685 日進市 中部大学日進高等学校 軽音楽部
7682 日進市 中部大学日進高等学校 軽音楽部
7713 半田市 愛知県立半田高等学校 フォークソング部
7711 半田市 愛知県立半田高等学校 軽音楽部
7567 尾張旭市 愛知県立尾張旭高等学校 軽音楽部
7726 豊橋市 愛知県立豊橋工業高等学校 音楽部
7730 豊橋市 豊橋中央高等学校 軽音楽部
9500 豊田市 日ネサップ豊田高等学校 軽音楽部
7735 豊田市 愛知県立豊田工業高等学校 音楽部
7736 豊田市 愛知県立豊田工業高等学校 軽音楽部
7737 豊田市 愛知県立豊田工業高等学校 キター部
7741 豊田市 愛知県立豊田工業高等学校 軽音楽部
7693 豊田市 杜若高等学校 軽音楽部
7663 豊田市 星城高等学校 軽音楽部

■大阪府

8040 大阪市 大阪市立桜宮高等学校 音楽部
4272 大阪市 愛知県立桜宮高等学校 軽音楽部
8047 大阪市 大阪市立豊中第二工業高等学校 軽音楽部
8014 大阪市 大阪市立東高等学校 フォークソング部
8014 大阪市 大阪市立東高等学校 軽音楽部
7986 大阪市 昇陽高等学校 軽音楽部
8039 大阪市 大阪市立吹くやの花園高等学校 軽音楽部
8042 大阪市 名古屋市立向陽高等学校 フォークソング部
7979 大阪市 愛知県立昭和高等学校 軽音楽部
8044 大阪市 愛知県立瑞穂高等学校 軽音楽部
8014 大阪市 名古屋学院大学附属高等学校 軽音楽部
9443 大阪市 名古屋学院大学附属高等学校 軽音楽部
7876 大阪市 明学高等学校 軽音楽部
8003 大阪市 名古屋市立山田高等学校 軽音楽部
4276 大阪市 植木学園高等学校 キター部
7959 大阪市 名古屋経済大学市研高等学校 軽音楽部
8002 大阪市 名古屋市立名古屋高等学校 軽音楽部
8135 大阪市 愛知産業大学工業高等学校 軽音楽部
8061 大阪市 名古屋工業高等学校 フォークソング部
7963 大阪市 名古屋工業高等学校 キター部
7955 大阪市 KTC おおぞら専門学校 名古屋キャンパス
8052 大阪市 クラーク記念国際高等学校 名古屋キャンパス 軽音研
7936 大阪市 愛知芸術高等専門学校 ミュージックコース
8034 大阪市 愛知県立松島高等学校 音楽部
8057 大阪市 愛知県立中村高等学校 音楽部
7929 大阪市 愛知県立中村高等学校 フォークソング部
8120 大阪市 東海高等学校 軽音楽同好会
7915 大阪市 名古屋市立若宮高等学校 キター部
8041 大阪市 愛知県立愛知高等学校 音楽部
7985 大阪市 愛知県立北高等学校 軽音楽部
8091 大阪市 愛知県立明和高等学校 P.M.部
8062 大阪市 筑芸ビジュアル専門学校 高校軽音 軽音楽部
7924 大阪市 常陸高等学校 軽音楽部
7920 大阪市 常陸高等学校 軽音楽部
8136 大阪市 東海高等学校 軽音楽同好会
8036 大阪市 名古屋工業高等学校 軽音楽同好会
8056 大阪市 愛知県立名古屋高等学校 軽音楽部
7998 大阪市 愛知県立成城高等学校 軽音楽部
7913 大阪市 名古屋市立板橋高等学校 軽音楽部
7918 大阪市 名古屋市立板橋高等学校 軽音楽部
7918 大阪市 名古屋市立板橋高等学校 軽音楽部
7981 大阪市 愛知県立緑高等学校 軽音楽部
8080 大阪市 愛知県立若木高等学校 軽音楽部
8066 大阪市 名古屋学院大学 フォークソング部
4282 大阪市 松山高等学校 軽音楽部

■大阪府

8130 大阪市 明学高等学校 軽音楽部
7951 大阪市 建國高等学校 軽音楽部
7929 大阪市 愛知産業大学附属高等学校 軽音楽部
7965 大阪市 大阪府立南高等学校 軽音楽部
8078 大阪市 三重県立三重高等学校 軽音楽部
8140 大阪市 三重県立四日市工業高等学校 軽音楽部
7992 大阪市 三重県立四日市工業高等学校 軽音楽部
7962 大阪市 三重県立北高等学校 バンド部
8010 大阪市 大橋学園高等学校 軽音楽部
7924 大阪市 大橋学園高等学校 軽音楽部
8049 大阪市 一志学園高等学校 軽音楽部
8090 大阪市 滋賀県立東山高等学校 軽音楽部
8119 大阪市 三重県立津高等学校 オリジナルソング部
4284 大阪市 三重県立津高等学校 軽音楽部
8051 大阪市 三重県立津東高等学校 ロック部
7922 大阪市 青山高等学校 けんけんソング部
7922 大阪市 滋賀県立津東高等学校 軽音楽部
4273 大阪市 三重県立津東高等学校 軽音楽部
8069 大阪市 三重県立石巻高等学校 軽音楽部
8084 大阪市 三重県立白子高等学校 軽音楽部
8112 大阪市 三重県立飯沼高等学校 軽音楽部
8079 大阪市 津籠工業専門学校 アコースティックギター部
8085 大阪市 東洋学園高等学校 軽音楽部
7944 大阪市 東洋学園高等学校 軽音楽部
8043 大阪市 滋賀県立大津高等学校 軽音楽同好会
7990 大阪市 滋賀県立大津高等学校 軽音楽部
8022 大阪市 滋賀県立津東高等学校 軽音楽部
8046 大阪市 幸徳の科学学園関西高等学校 軽音楽同好会
8053 大阪市 滋賀県立石山高等学校 軽音楽同好会
8063 大阪市 滋賀県立膳所高等学校 軽音楽部
7924 大阪市 滋賀県立大津高等学校 軽音楽部
7983 大阪市 比叡高等学校 軽音楽部
8110 大阪市 滋賀県立飯沼高等学校 軽音楽部
8111 大阪市 滋賀県立飯沼高等学校 軽音楽部
8074 大阪市 滋賀県立飯沼高等学校 軽音楽同好会
4266 羽曳野市 滋賀県立飯沼高等学校 軽音楽部
8031 羽曳野市 滋賀県立飯沼高等学校 軽音楽部
8072 羽曳野市 滋賀県立飯沼高等学校 軽音楽部
8073 羽曳野市 滋賀県立飯沼高等学校 軽音楽部

■京都府

5643 宇治市 京都府立南麗高等学校 フォークソング部
5647 宇治市 京都府立南麗高等学校 フォークソング部
5647 宇治市 京都府立南麗高等学校 軽音楽部
5648 亀岡市 京都府立亀岡高等学校 軽音楽部
5656 京丹波市 京都府立丹波高等学校 久美沢学舎 軽音楽部
9524 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
9527 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5657 京丹波市 京都府立丹波高等学校 キター部
5657 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5663 京丹波市 京都府立丹波高等学校 キター部
5665 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5660 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5671 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5672 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5670 京丹波市 同志社高等学校 軽音楽部
5675 京丹波市 京都府立丹波高等学校 フォークソング部
5677 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5678 京丹波市 同志社女子高等学校 軽音楽部
5679 京丹波市 平安女学院中学校、高等学校 軽音楽部

■京都府

5643 宇治市 京都府立南麗高等学校 フォークソング部
5647 宇治市 京都府立南麗高等学校 フォークソング部
5647 宇治市 京都府立南麗高等学校 軽音楽部
5648 亀岡市 京都府立亀岡高等学校 軽音楽部
5656 京丹波市 京都府立丹波高等学校 久美沢学舎 軽音楽部
9524 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
9527 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5657 京丹波市 京都府立丹波高等学校 キター部
5657 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5663 京丹波市 京都府立丹波高等学校 キター部
5665 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5660 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5671 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5672 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5670 京丹波市 同志社高等学校 軽音楽部
5675 京丹波市 京都府立丹波高等学校 フォークソング部
5677 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5678 京丹波市 同志社女子高等学校 軽音楽部
5679 京丹波市 平安女学院中学校、高等学校 軽音楽部

■京都府

5643 宇治市 京都府立南麗高等学校 フォークソング部
5647 宇治市 京都府立南麗高等学校 フォークソング部
5647 宇治市 京都府立南麗高等学校 軽音楽部
5648 亀岡市 京都府立亀岡高等学校 軽音楽部
5656 京丹波市 京都府立丹波高等学校 久美沢学舎 軽音楽部
9524 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
9527 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5657 京丹波市 京都府立丹波高等学校 キター部
5657 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5663 京丹波市 京都府立丹波高等学校 キター部
5665 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5660 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5671 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5672 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5670 京丹波市 同志社高等学校 軽音楽部
5675 京丹波市 京都府立丹波高等学校 フォークソング部
5677 京丹波市 京都府立丹波高等学校 軽音楽部
5678 京丹波市 同志社女子高等学校 軽音楽部
5679 京丹波市 平安女学院中学校

高等学校文化連盟軽音楽専門部／高等学校軽音楽連盟 連絡先一覧

これは各都道府県の高等学校文化連盟軽音楽専門部、および高等学校軽音楽連盟の連絡先です。各組織に参加することで公式大会に参加したり、他校の顧問の先生と交流する機会が増えます。下記に掲載されていない県の高等学校の軽音楽系部活動の顧問の先生で、県をまとめて組織化しようと思われる方は全国学校軽音楽部協会（info@keionkyo.org）までご一報ください。高等学校の軽音楽部の発展を目指して、頑張りましょう。

	都道府県	団体名	学校数	生徒数	連絡先
北海道	北海道	北海道高等学校文化連盟軽音楽専門部 北海道高等学校軽音楽連盟	80校 38校	約2,000名 1,268名	【田澤英貴／委員長】北海道札幌厚別高等学校
	岩手県	岩手県高等学校文化連盟軽音楽専門部	21校	614名	【木村 健／専門部理事】岩手県立盛岡南高等学校
東北	宮城県	宮城県高等学校文化連盟軽音楽専門部	40校	約1,769名	【平澤和昭／軽音楽専門部理事】尚絅学院高等学校
	茨城県	茨城県高等学校軽音楽連盟			【高野陽輔／委員長】茨城県立竹園高等学校
関東	埼玉県	埼玉県高等学校軽音楽連盟	61校	約2,000名	【齋藤教雄／事務局長】埼玉県立浦和高等学校
	千葉県	千葉県高等学校軽音楽連盟	28校	約500名	【島 晴己子／委員長】東海大学付属浦安高等学校・中部
	東京都	東京都高等学校文化連盟軽音楽部門 東京都高等学校軽音楽連盟	119校	約6,500名	【佐々木弘人／委員長】成女高等学校
	神奈川県	神奈川県高等学校文化連盟軽音楽専門部会 神奈川県高等学校軽音楽連盟	52校	約2,600名	【橘 秀樹／委員長】神奈川県立相模原弥栄高等学校
	長野県	長野県高等学校文化連盟軽音楽専門部	66校	2,123名	【金山幸信／事務局長】長野県野沢南高等学校
中部	静岡県	静岡県高等学校文化連盟軽音楽専門部	19校	約900名	【小澤知彦／専門部長】静岡県立静岡西高等学校
	愛知県	愛知県高等学校軽音楽連盟	27校	約1,500名	【中村弘之／委員長】名古屋経済大学市邨高等学校
	奈良県	奈良県高等学校軽音楽連盟	8校	約300名	【渡邊敬久／事務局長】奈良育英中学校高等学校
近畿	滋賀県	滋賀県高等学校軽音楽部会	18校	約650名	【村田 良／代表幹事】滋賀県立大津清陵高等学校通信部
	京都府	京都府高等学校軽音楽連盟	19校	650名	【中川龍一／委員長】京都光華高等学校
	大阪府	大阪府高等学校芸術文化連盟軽音楽部会 高等学校軽音楽部連盟大阪	103校 (104団体)	約3,000名	【追田和哉／運営委員】大阪府立平野高等学校
	兵庫県	高等学校軽音楽部連盟兵庫	31校	約1,350名	【岡崎宏省／連盟長】兵庫県立武庫荘総合高等学校
	和歌山県	和歌山県高等学校文化連盟軽音楽部会 和歌山県高等学校軽音楽連盟	9校	約340名	【横出加津彦／代表理事】和歌山県立粉河高等学校
	中国	広島県	広島県高等学校文化連盟軽音楽専門部 広島県高等学校軽音楽連盟	24校	約700名
四国	高知県	高知県高等学校文化連盟軽音楽専門部	26校	約700名	【横田直祐／事務局長】高知県立窪川高等学校
九州・沖縄	福岡県	福岡県高等学校軽音楽連盟	20校	約700名	【大谷伸弥／委員長・事務局長】福岡県立筑前高等学校
	熊本県	熊本県高等学校軽音楽連盟	14校	約250名	【森 宏之／理事長】熊本県立済々黌高等学校
	沖縄県	沖縄県高等学校文化連盟軽音楽専門部	43校	約430名	【波平貢司／委員長】沖縄県立球陽高等学校
		合計	828校	約29,576名	

は専門部のある都道府県を意味します

2021年1月29日現在、敬称略



アンサンブルが良くなる 指導ポイント

音楽は「人」を育てる最適なツールだと信じています。音楽を演奏すること、バンド活動をするには協調性やコミュニケーション能力、リーダーシップ性、創造力と発言力、そして、それらを開花させるための努力を持続する力の育成につながります。軽音楽部でそれらを伸ばすためには「合奏」することが必要不可欠です。部活動の目的としても、音楽をより楽しむためにも、アンサンブルは大事なファクターです。

楽曲について合わせておくこと

料理と音楽はとても似ています。何を突然…と思われるかもしれませんが、素材の持ち味を生かして1つの作品にまとめ上げる、技術と知識とオリジナルの感覚で創意工夫をすることなど、根底にあるものは料理も音楽も同じです。複数人で料理（楽曲）を作り上げることがバンドであり、ライブの曲順を考えることはコース料理のお品書きを考えることと一緒に。楽器やバンドをやりたい、作曲やライブがしたい、ひいては軽音楽部に入部したいということは、少なからず今まで食べているだけだった料理を、今度は自分でも作りたかったということだと言えます。

美味しい料理を作るには、例えば包丁の持ち方や角度、手や指の置き方といった一定の技術習得が必要になります。それは音楽をするために楽器の練習をすることと一緒に。しかし、包丁の使い方がうまくなったからといって、料理がうまくなったということではありません。それは、どこまでいっても包丁の使い方がうまくなっただけのことでしかなく、いかに包丁1本で繊細なキュウリの飾り切りができようとも、肉ジャガ1品作れなくては宝の持ち腐れとなってしまいます。包丁は料理をするための「道具」です。美味しい料理を作るために道具の扱い方

を練習するのであって、包丁の技術習得が目的ではありません。音楽も同様に、楽器の技術向上の目的は楽器そのものの上達のためだけではなく、あくまでも「良い音楽」をするためにある、という考え方を理解させておくことが大事です。

また、厨房で複数の人間が連携を取って1つの料理を作るには、何の料理をどんな味付けで作るのか、各作業にはどんな意味があるのか、最終的にどんな皿に盛ってどんな雰囲気の中で食べてもらうのか…といったことを全員がしっかりと把握し、それぞれが役割をきちんと遂行しなければなりません。すなわち、チーム・プレイであることの意識が最も重要なのです。そう考えると、バンドもラグビーの「One for all, All for one」の精神と共通します。

アンサンブルは日本語に訳すと「合奏」という意味です。読んで字のごとく、演奏を合わせることができているか、合わせようとしているかがチェック項目になります。しかし、合わせるべきものは音使いやタイミングばかりではありません。音符の長さ、音色、帯域、強弱、リズムから、歌詞の理解やドラマを共有する感情面に至るまで山ほどあります。まずは、演奏する「楽曲」について、実際にバンド練習に入る前にメンバー間で合わせておくべきことを考えてみましょう。

楽曲について合わせておくこと

1. 選曲
2. 楽曲のキー（調）
3. コード進行やリピートなどの曲構成
4. テンポ
5. 歌詞

1. 選曲

軽音楽部のバンドに最も多く感じるのが「選曲ミス」です。難しい楽曲に挑戦することにも意味があったり、好きな楽曲を背伸びしてやりたい気持ちもよくわかります。しかし、ほとんどの場合それらは自己満足に終わり、「合奏」までたどり着けていないことが多いのではないでしょうか。まずは、自分たちの力量に合った楽曲を探すことが大事です。難易度の高い楽曲を演奏したいのであれば、それぞれがもっと演奏技術のスキルを上げるように鼓舞して、目標とすることも1つの手です。特に1年生の初心者バンドは注意が必要です。

コピー曲の選曲で注意すべきポイントはいくつかあります。各パートの難易度バランスもチェック項目ですが、テンポが速すぎたり遅すぎたりすると当然難しくなるので気をつけましょう。また、楽曲によってはギターが複数本レコーディングされていて、ギタリストが3人いないと再現できないなどという場合や、ストリングス（※1）やホーン・セクション（※2）が多く入っていて、キーボーディストが複数いるか、同期（※3）がないと楽曲の雰囲気が出ないということもあるので、メンバー構成も考慮に入れるべき案件です。慣れてくれば、そのあたりのパート・アレンジをうまく処理したり、思い切って楽曲自体のアレンジを変えてしまうこともできると思うので、中級者以上にはあえて挑戦させてみる面白さと思いますが、初心者はなるべく自分たちと同じ楽器数でまかなえる楽曲を選んだ方が良いでしょう。



●注釈 ※1：バイオリンやチェロなどの弦楽器隊のこと。 ※2：サクソフーンやトランペットなどの管楽器隊のこと。 ※3：パソコンで作られた打ち込み音源を生バンドと一緒に演奏すること。ドラマーがメトロノームをイヤホンなどで聴きながら合わせる。 ※4：声で出せる音程の範囲のこと。平均的には2オクターブ前後ほど。 ※5：キー（調）自体を変化させること。カラオケのキー・チェンジと同じ。ちなみに、転調とは楽曲の途中でキーが変わることを指す。



厄介なのが、ロック・バンドに多い、ギターやベースが変則チューニングをしていたり、7弦ギターや5弦ベースを使っているケースです。もちろん、様々な方法で対応できますが、やはり初心者はレギュラー・チューニングで、一般的なギターやベースで演奏できる楽曲を選んだ方が無難だと思います。

2. 楽曲のキー（調）

合奏で最も重要なのが、楽曲の「キー」をボーカリストに合わせることです。日本ではなぜか原曲のキーで歌えること、高い声を出せることがステータスになっている気がしますが、これはまったく音楽的な基準ではありません。確かに高音で張りのあるボーカルは魅力的ですが、持って生まれた声域（※4）や良い響きの範囲は人それぞれ違うので、ボーカリストの声域に合った楽曲選びを心がけるべきです。男性ボーカル曲を女子部員が歌うケースもよく見かけますが、キーが低すぎて声がかくもってしまっていることもよくあります。ギターやベースの演奏に支障がなければ、移調（※5）してキーを上下させることも選択肢の1つです。反対に、中級者以上には移調させた方がコードを理解する上でも有効なので、なるべく挑戦させることをおすすめします。

オリジナル曲を作る場合、多くは家で小声で歌って作ると思うので、実際にバンドで歌う時よりもキーが低くなりがちです。バンドで歌う時のようにしっかりと声を出してキーを決めましょう。そのためには、ボーカル・パートの全員があらかじめ自分の声域とそこで綺麗に響く得意な声域の幅を調べておくことと便利です。向上心にもつながる効果的な取り組みなので、ぜひ行ってみてください。

3. コード進行やリピートなどの曲構成

市販のバンド・スコアやインターネットから落としたパート譜を、バンド練習時に持ち込まないようにすることがアンサンブルを良くする第1歩です。これらは個人練習やフレーズの確認の時に使うべきもので、バンド練習では「マスター・リズム譜」を自分たちで作ることが理想です。マスター・リズム譜とは、言わば芝居の台本のようなもので、主にコード・ネームやリピート・マーク、リハーサル・マーク（※6）の他、キメ（※7）やシンコーション（※8）など、全員に共通する情報のみが書いてある譜面のことです。それ以外は各パートのフレーズ（音符）は書きません。必要であれば各々が自分で書き込むようにしていきます。できればコードを耳コピして、リピート・マークの位置やリハーサル・マークなどを自分たちで考えて作ることが望ましいですが、難しいようであれば市販のバンド・スコアなどを参考にしても構いません。大切なのは、自分たちでマスター・リズム譜を書きおこす作業をするということです。

実際には五線ではなく横線を1本引いて小節を区切るだけでも十分です。どんなものであろうと、全員が同じ台本を共有していることが大事なのです。台本があれば、「リハーサル・マークBの3小節目」と、指摘したい箇所がすぐに伝わります。短い時間でバンド練習をしなければいけない軽音楽部にとっては必須のアイテムと言えるでしょう。また、そういったマスター・リズム譜や楽曲の構成がわかるものは、レコーディングする時にも必要になります。時間はかかるかもしれませんが、ぜひチャレンジさせて

みてください。

4. テンポ

意外とおそろかにされているのが「テンポ」です。楽曲にはベスト・テンポがあり、プロのレコーディング現場では、テンポを1つ変えるかどうか結構な時間をかけます。テンポが1つ違うだけで楽曲の印象がガラッと変わるからです。練習の時に意図的にテンポを落として演奏してみることも有効ですが、アンサンブルをまとめるにはいつも同じテンポで練習することが大切です。毎回、気分次第の適当なテンポで練習しているのは演奏はまとまりません。ドラマー部員には持ち曲すべてのテンポを調べさせ、カウントを出す前に必ずメトロノームでテンポを確認する作業をさせましょう。

また、ドラマー以外でも演奏する楽曲のテンポを知っておくことは重要です。個人練習の時からメトロノームを使うことで、正しい「テンポ感」が身につきます。

5. 歌詞

メンバー間でお互いのフレーズを把握し合うことは、合奏する上でとても大事です。初心者では難しいかもしれませんが、せめて歌詞の内容は共有しておくべきです。メンバー全員がボーカリストと同じ気持ちになってはじめて「良いアンサンブル」が生まれます。本来は、セクション（※9）ごと、文節ごとに感情の動きなどを細かく共有したいところですが、最初は主人公の年齢、性別、性格、舞台となる場所、季節など、全体的な「設定状況」だけでも十分です。最も重要なのは、この楽曲で一番伝えたいことは何なのかを全員で共有することです。

コピー曲の場合、原作者の気持ちなどは知る由もないので、自分たちで勝手に解釈して決めてしまって構いません。喜怒哀楽、どういう気持ちで演奏するのかを話し合っておくことは、合奏上とても大切な準備です。もちろん、歌詞を最も理解して欲しいボーカリストには、歌詞をしっかりと読み込ませましょう。感想文を書かせても良いぐらいです。一方、オリジナルの歌詞であれば、どんな内容なのかをメンバーに伝えることも作詞者の大事な役割です。

単純に、歌や演奏が上手な方がメッセージが伝わりやすいことは明らかです。感情をより表現できるように個人練習をしっかりとやるべきなんだと意識させることが大切です。

※6：譜面に付けるAやBというチャプター。 ※7：ブレイク（全員が止まる）など、ドラムも一緒に行うユニゾン・フレーズのこと。 ※8：強拍が前の小節に食い込んでいくリズム。刺激的なアクセントがつく。 ※9：イントロ、Aメロ、サビ、間奏などの分割された「くくり」のこと。

バンド練習の前に合わせておくこと

まず、そもそも「練習」とは何かということを考えてみたいと思います。我々日本人は、世界一複雑とも言われる日本語を巧みに使いこなしています。略語、造語、外来語、カタカナ語、訳語、新語、流行語…。そして、その他に方言、イントネーション、古語、スラングなどもある大変です。しかし、それ故にイメージで言葉を使い、本来の意味が曖昧になってしまっているケースも少なくないと思います。

例えば、「練習」という言葉は本来の意味からズレてしまっていると感じます。英語では、その意味によって言葉を使い分けています。

practice = 技能上達のために自分で繰り返し練習すること

exercise = 体力増強のための運動や知的訓練のこと

train = 体力や技術を伸ばすために練習させて訓練すること

drill = 指導のもとに反復して訓練すること

日本では、これらをひとまとめに「練習」と言っているわけですが、日本語にはまれにこういう事例が出てきます。また、練習の英訳は「リハーサル」だと思っている人も少なくないようですが、実はこれも間違った言い方です。「練習」を和英辞典で調べても、リハーサルという言葉

は出てきません。ちなみにウィキペディアを参照すると、リハーサルとは「個々の場面を本番と同様に進行させて確認する行為。同義語や類義語には下稽古・予行演習がある」とあります。つまり、「練習」は個人練習のことで、「リハーサル」はライブなどの予行演習のことを指し、まったくの別物なのです。しかも、軽音楽部の活動で最もメインとなる「バンド練習」に対する言葉は日本語にも英語にもないのです。一体、バンド練習では何を練習すれば良いのでしょうか。

芝居の「稽古」という言葉は、バンド練習に近い気がします。しかし、稽古と練習の違いは武道や伝統芸能の世界でははっきりと使い分けられています。要約すると、「稽」という字は「考える」という意味があり、「稽古」とは古(いにしえ)の事柄に照らし合わせながら物の道理を学ぶこと、「練習」とは技能や芸事などが上達するように同じことを繰り返し習うこと…となります。やはり、どちらも個人鍛錬的な意味合いが強く、創造性が大事なポピュラー・ミュージックにおいては少しニュアンスが違うようです。

では、最もしっくりくる言葉は何か。それは「打ち合わせ」です。雅楽ではリズムを合わせるために、笏拍子などの打ち物(打楽器)を打って拍子を取ることを「打ち合わせ」と言います。転じて「物事がうまく合うようにする」という意味になり、現在では「事前に相談する」とい

う使われ方をしています。この、本来の意味である「リズムを合わせる」ということも、「相談して何かを決める」ということも、バンド練習で行うべきことです。バンド練習は「会議(ミーティング)」なのです。

曖昧に使われている言葉を整理してみると、いろいろなことが見えてきます。バンド練習をすることの目的は「打ち合わせ」であり「個人練習」ではありません。毎回しっかりと議題や案件をクリアし、次回までに各々が何をしてくるのかを明らかにすることがバンド練習の目的です。では、その会議の前にしておくべき「下打ち合わせ」や「会議の準備」について考えてみましょう。

バンド練習の前に合わせておくこと

1. 練習の目的
2. 環境作り
3. チューニング
4. 音色作り
5. 音量

1. 練習の目的

会議を短くスムーズに進めるため、参加者に前もって議題を伝えておくように、バンド練習を行う前には「目的」を決めておくことが大切です。合奏のクオリティーを上げるためなのか、ライブのリハーサル(予行演習)なのか、オリジナル曲を作り込むためなのか…といったことを、メンバー間であらかじめ決めておくことで「練習」が「打ち合わせ」になります。

最も良くないのは、セッティングが終わって「さあ、何する?」となることです。また、単に「みんなで音を出して楽しかった」で終わることも、バンドがまとまっていけない理由の1つです。「次の練習日はこの曲を仕上げよう」「キメを合わせる練習をしよう」「コードの確認をしよう」と細かく決めておくことで、次回までにそれぞれが個人練習でやってくるべきことがはっきりとします。意識が高くないと難しいかもし



●注釈 ※1: 出力した音をマイクが拾い、その音がまた出力され、またマイクが拾い…ということがループして起こる現象のこと。エレキ・ギターではこれを利用して、フィード・バック奏法として使用することもある。



れませんが、上達には欠かせないやり方です。初心者のバンドであれば、「今日はイントロを仕上げる」「サビの確認をする」など、セクションごとに目的を決めるのも良いでしょう。各自それぞれに責任感も生まれ、効果は絶大です。

2. 環境作り

練習場となる場所の環境は、広さや機材の多さも含め学校によって大きく異なると思います。今回は「理想の環境作り」ということで説明しますので、ポイントをご理解いただき、それぞれに合った施策をさせていただければ、と思います。

機材の配置は練習の目的によって変わります。目的が打ち合わせであれば、全員が丸く輪になって演奏の方がベストです。横一列になって行う会議など考えられません。顔を上げればアイコンタクトが取れ、お互いの音がよく聞こえることが理想です。これは、総音量の抑制にもなります。反対に、ライブの練習（リハーサル）であれば、ステージの様に全員が同じ方向を向いて、ステージングや合図の出し方などを考えながらシミュレーションした方が良いでしょう。どちらの場合も、ハウリング（※1）を起さないようにPAスピーカーの位置（向き）をボーカル・マイクやコーラス・マイクへ向けないように注意してください。ハウリングはミキサーのEQ（※2）でもある程度は対応できますが、ボーカルの音量や音色にも影響するので、スピーカーの位置をあらかじめ考える方が有効です。

小型のギター・アンプやベース・アンプを使用する場合、床へ直に置くと自分の出している音が聴き取りにくくなるので、椅子や机の上に置いたり、アンプから2～3メートルほど離れ

て弾くようにセッティングしましょう。ボーカル用のモニター・スピーカーも、適切な位置に置いてあるかによって耳に届く音量が大きく変わるので、いろいろと試して最適な場所を見つけましょう。

同様に、おそろかにしないで欲しいのが、エフェクターやシールド・ケーブルなどの足元環境です。体に対して横や斜めにエフェクターを置いたりせず、立ち位置の前にはしっかりとセッティングしましょう。また、シールド・ケーブルやコード類を踏まないようにきちんと整理しておくことも、ケガや機材破損の予防になります。

3. チューニング

初心者にありがちなのが、ギターやベースのチューニングをあまりしないことです。どんなにうまく弾けてもチューニングが狂っているのは良い演奏になりません。前提として「チューニングは狂うものだ」と認識し、毎曲演奏する前には必ず確認するクセをつけましょう。さらに、チューナーで合わせただけで終わらせず、必ず耳でも確認すること、全員で音を出しておかしくないかを確かめることが大切です。「耳の良さ」が重要な音楽にとって、チューニングをきちんとするという意識が耳を鍛えていくことにもつながります。もちろん、チューニングが合う状態を維持するために、日々メンテナンスをすることも忘れないようにしましょう。

キーボードの機種によっては、最初の設定が少し高くチューニングされている場合（※3）があるので注意が必要です。また、ドラムには音階がないので、音程を合わせるようなチューニングは必要ありませんが、ネジが緩んでいる

とヘッドが破れやすくなるので、せめて「ヘッドの緩みはないか」「ある程度、均等にヘッドが張られているか」くらいは毎回チェックするようにしましょう。

4. 音色作り

楽器の音色バランスを考えることもアンサンブルには欠かせないポイントです。各楽器の周波数帯を考慮してお互いの領域に踏み入らないようにすると、全員で音を出した時にそれぞれの音がクリアに聞こえ、全体の音量を抑えることにもつながります。歪んだギターやベースの音は、エッジが取れて奥へ引っ込んでしまい、バンドのサウンドに埋もれてしまう場合があります。歪ませ加減には注意が必要です。また、バス・ドラムやベース、ギターの低音域が干渉し合い、音がぐもってはっきりしないことや、中音域に音が集まりすぎて歌が聞こえにくく、厚みのないサウンドになってしまうこと、狙っている場合もあると思いますが、ギタリスト2人が両方とも同じような音を出して、お互いがよく聞こえなくなっている場合などもあります。ドラムを含め、特定の楽器の音が抜けてこないと感じたら、音量よりもまずは音色をチェックしてみてください。

最近は複数のエフェクターやマルチ・エフェクターを使用することが主流になってきましたが、慣れないと使いこなすのはなかなか難しいものです。好みによって違いはありますが、「良い音」とする判断基準は、バンド全員で音を出した時の状態できるように心がけましょう。楽器単体で好きな音色にこだわるよりも、楽曲に合う音作りやバンドで音を出した時に抜けて聞こえる音を目指すことが大切です。

5. 音量

合奏では、基本的にドラムの音量に合わせて他の楽器の音量を決めることになると思いますが、PAスピーカーの位置やアンプの配置、それぞれの音色などを考えた上で、ボーカルがちゃんと聞こえるか、お互いの音が聴きづらくないかを確認することが大切です。練習場やライブのステージがどんな環境であっても、バランスの良いバンド・サウンドを目指す努力が大事です。また、自信がなくて控えめに演奏したり歌ったりしているメンバーには、「会議にならない」と、しっかりと音を出すように指示することも必要です。

※2：イコライザー（EQUALIZER）の略称。決まった周波数帯をカットすることでハウリングを防いだり、足りない周波数帯を持ち上げる。 ※3：チューニングの基準はA=440Hz。

アンサンブルで確認すべきこと

音楽は「メロディー」「リズム」「ハーモニー」から成り立っています。これを「音楽の三要素」と言い、アンサンブルを指導する時にも重要なポイントになります。

ヨーロッパ発祥のクラシック音楽では「旋律」が最も重要視され、その旋律を生かすように他の旋律が絡んでいくという構造になっています。すなわち、音楽は「リズム」を持ったいくつもの「メロディー」が「ハーモニー」となって構築されているという形です。しかし、アメリカが生んだポピュラー・ミュージックにおいては少しニュアンスが違います。もちろん、ジャズやロックも音楽の三要素が柱なのですが、ポピュラー・ミュージックにおいてはリズムが合奏の土台として存在し、楽曲の方向性を決める重要なポイントとなります。ロックでは、これを「グルーブ」という概念で表現しています。また、ハーモニーを「コード」で考えることが多く、コード進行によって楽曲の骨格を成り立たせ、その上にメロディーが乗るという構造になっています。和音＝コードと認識されることが多いのですが、正確には和音を記号化して演奏の自由度を広げたものがコードです。

さらに、ロックという音楽にはそこにもう1つ「歌詞」という重要な要素が加わります。特に、J-ROCK、J-POPでは歌詞をおろそかにすることはできません。反対に「歌詞ありき」と言っても良いくらいです。歌詞がない楽曲や意味のない歌詞が続く楽曲もありますが、多くの場合は情景や物語が言葉で表現されています。

このように、クラシックとロックは似て非なる音楽なのですが、音楽の三要素を無理やりロック・バンドに置き換えてみると、「メロディー」はボーカルを含め、ギターのフレーズやベース・ラインなど、すべての楽器の旋律のことを指します。「リズム」とはテンポや拍子、グルーブといった循環する揺れのこと、「ハーモニー」はすべての楽器同士のフレーズが絡み合って生まれるコードとの関係性のことを指します。そこに、「歌詞」を含めた四要素を大事にしながら演奏しているか、という点を見ていくことが、ロック・バンドにおけるアンサンブルのチェック・ポイントとなります。

アンサンブルで確認すべきこと

1. 主役が生かされているか
2. リズムが合っているか
3. フレーズが合っているか
4. ハーモニーが合っているか
5. ダイナミクスが合っているか

1. 主役が生かされているか

基本的に、ボーカルがいるバンドの場合は彼らが主旋律を担い、楽曲のメッセージを言葉で表現する「主役」となります。オーバーに言うと、ボーカルのために他のパートがあるといっても過言ではありません。例えば、ラップやデスメタルのようなあまりメロディーがないジャンルであってもその関係は変わらず、「いかにボーカルをよく聴かせるか」がアンサンブルの主な目的となります。ボーカルがいないインストゥルメンタル・バンドの場合は、主旋律を演奏するパートが主役となります。

しかし、ボーカルが絶対的な主役だとしても、1曲中ずっと歌いっぱなしというわけではありません。イントロのストリングスのメロディーや間奏のギター・ソロなど、その都度、主旋律

を取っているパートがそのセクションの主役となります。大切なのは常に「今は誰が主役なのか」をメンバー全員が把握し、主役のパートはその自覚を持ち、伴奏に回っているパートは主役が映えるように心がけることです。それができていないと、音楽的な構造が崩れ、アンサンブルとして成立しなくなってしまいます。

主役が生かされているかを見るポイントは、楽曲のキー（調）、帯域や音量のバランス、楽器の音色が適切かなど多々ありますが、最も重要な点は「気持ち」です。簡単に言うと、ボーカルが歌詞に準じて切なく歌っているAメロでは他のパートもその切ない気持ちを持って演奏しているか、元気よく「行くぜー！」という気持ちでギタリストがソロを弾いているのであれば、その気持ちを盛り上げるように他のメンバーも同じテンションでバックアップしているかがポイントです。それには、やはり歌詞の内容や楽曲の世界観、ドラマチック性、メッセージがメンバー間で共有されているかが重要となります。

2. リズムが合っているか

ポピュラー・ミュージックにおける「リズム」とは、メロディーが持っている抑揚の他に、ビート（拍）をどう捉えて演奏しているかという「楽



曲の土台」のことを指します。最も単純な例として、ギタリスト2人がパワー・コード（※1）で8分音符をガンガン…と弾いているとします。その際、1人は4分音符でリズムを取って、もう1人は8分音符でリズムを取っているのであれば、ニュアンスは同じでもリズムの融合はできません。例えば、リズムを感じる体の動きを合わせるだけでも演奏の一体感が出るものです。もちろん、同じリズムで体が動いていると、客席からの見た目も良くなります。

リズムの感じ方は、自分が演奏しているフレーズに左右されがちです。4分音符のフレーズなら4分音符、8分音符のフレーズなら8分音符で体が動いてしまいます。パフォーマンスとしては間違いではありませんが、「リズムを合わせる」という点では必ずしも正解とは限りません。リズム（グルーブ）の上にフレーズが乗っているというイメージを持って、楽曲に合ったリズムを感じる事が大切です。特に、強いビートが大事なロックでは、どんなフレーズを歌ったり演奏していても、体の奥底では4分音符をしっかりと感じていることが必須です。

極論を言うと、実は全員の感じているリズムが合っていないでも合奏は成立するのですが、それはかなりハイ・レベルなやり方なので、軽音楽部ではまず全員が1つになることや、ドラムをよく聴いて合わせることから始めましょう。

3. フレーズが合っているか

コピー曲の場合、各々でバンド・スコアを読んだり耳で聴いてコピーをしてることがほとんどだと思います。そうすると、それぞれがコピーしてきたフレーズが間違っていることも少なくありません。単体で聴いていると間違いに気づきにくいものですが、コード・ネームやスケールを踏まえながら、それぞれどのようなフレーズなのかを確認して修正していきましょう。フレーズの確認にはバンド・スコアを使用しても構いません。

一方、オリジナル曲の場合は、添削する「お手本」がなく、それぞれが独自にフレーズを作ってしまうことが多いので、コピー曲以上に「自分の考えたフレーズが他パートと合っているか」をお互いにチェックしなければなりません。キメやユニゾン・フレーズなどは特に注意が必要です。

例えば、それはバス・ドラムのフレーズとベースのフレーズが噛み合っていない、といった場合もあります。もちろん、ずっとユニゾンしていかなくてはならないというわけではありませんが、お互いにどんなフレーズになっているのか、アクセントやタイミングは合っているかななどを



細かく整理していくことで、リズム隊としての一体感が生まれ、ボーカルやギターなどの上モノ・パートを支える土台になります。

4. ハーモニーが合っているか

ポピュラー・ミュージックは「コードの音楽」と呼ばれるほどコード進行が重要です。従って、全員が演奏しているコードが間違っていないかを確認することは必須項目の1つです。もちろん、それには全員が「コード進行」を理解していることが前提となります。コード進行がわかっているならば、アルペジオやベース・ライン、ボーカルのメロディーなどが合っているのか、コード・トーンやスケールに沿っているかといったことがジャッジしやすくなります。原曲がないオリジナル曲の場合はなおさらです。

音楽的な知識がないと難しいかもしれませんが、音楽としての大事な部分なので、まずはマスター・リズム譜を作るところからはじめて欲しいと思います。しかし、実際にはテンポを落としてゆっくりと演奏し、音が濁って汚く感じるところのフレーズを確認し合うだけでも解決される場合があります。極論を言えば、理論上は間違っているでも聴いていて気持ち悪くなければOKです。ただし、困った時には音楽理論がとて役に立つものなので、既存の曲のフレーズをコピーする時も、オリジナル曲に各パートのフレーズをつける時も、音楽理論がある程度わかっていた方が大きな手助けとなります。ハーモニーの確認は、自分たちが「音楽を奏でているのだ」という意識を芽生えさせることにもつながる大切な作業です。

また、つい「何となく」で済ませてしまいが

ちなのが「コーラス」です。コーラスはサビや強調したい部分に入っていることが多く、楽曲を盛り上げる大事なスパイスなので、しっかりと確認したい案件です。楽器を演奏しながらコーラスを取る場合は、タイミングも難しいかもしれませんが、しっかりと楽器でコーラスのメロディーの音を確認しましょう。

5. ダイナミクスが合っているか

軽音楽部の演奏で最も多いのが「ダイナミクスがない」ことです。ダイナミクスとは「全体的な音量の増減による抑揚」のことです。どんなに整ったハーモニーできちんとタイミングが合っても、ダイナミクスがない演奏は機械的で面白く感じることはできません。やはり、歌詞に沿って様々なに変化する音量やスピード感があつた方が聴く人の胸を打ちます。バンド・スコアには、アクセント・マーク以外にそういった指示はほとんど書いてありません。しかし、本来は「ここはドカン!と大きく」や「ここはスッと静かに」といった、全員で行う音量操作が音楽には大切です。小学校の時の合唱でそんなことに気をつけていた記憶があるのではないのでしょうか。ロックの場合、自分たちでそれらを決めて行なっていく必要があります。

とはいえ、それぞれが勝手にダイナミクスをつけて演奏しては合奏はまとまりません。セクションごとどのぐらいの音量差をつけるのかを全員で話し合い、何度も録音&聴き返すを繰り返して決めていきましょう。イントロは5、Aメロは3、サビは7だけ最後のサビは9…といったように、最初は数値でレベルを決めていくとわかりやすいかもしれません。

●注釈 ※1: ギターの奏法の1つ。3度の音を抜いてルートと5度の和音で弾く。

演奏をまとめるために必要なこと

アンサンブルを構築して演奏をまとめ上げることは、絵を描いていく過程と似ています。もちろん絵は1人で描き、バンドでは複数人で行うという違いはありますが、「作品を仕上げる」という行為は絵も音楽も同じような行程を辿ります。もしかすると、バンドで演奏をまとめていく方が、メンバー全員が1つになって同じ目標に向かって進まなければいけないので、絵を描くことよりも難しいかもしれません。大事なことはメンバー全員が意思の疎通をして、共通の完成形を想像しながら、常に俯瞰で進行状況を見て意見を出し合うことです。これはコピー曲の場合もオリジナル曲の場合も変わりません。演奏をまとめ上げるために必要なこととは何かを考えてみたいと思います。

演奏をまとめるために必要なこと

1. チーム・プレイを目指す
2. 楽曲のデッサンをする
3. 聴く側の立場になってみる
4. 常に全体像を考える
5. 役割を大切にす

1. チーム・プレイを目指す

軽音楽部はバンド単位の活動がメインになるので、運動部のように「部一丸となって」といったような感覚は芽生えにくいかもしれません。しかし、バンドも複数人が同じ目標に向かって協力しながら頑張っていく、という点ではまったく同じです。それは、運動部と同じように「チーム・プレイ」が根底になければいけないということでもあります。もちろん、実際には臨機応変さが必要だったり、個人の能力によって差が生まれたりすることもあると思いますが、大切なのは他人の動きやプレイをよく見て、「みんなまで連携する意識」を持つことです。

初心者でよくあるのが、なかなかうまくできないフレーズを失敗しても失敗しても自分の満足度を優先して繰り返してしまい、周りに迷惑

をかけてしまうことです。できないフレーズに果敢に挑戦することも大切ですが、バンド練習の時は簡単なフレーズに変えたり、勇気を持って「できないことはやらない」ようにした方がベターな場合もあります。演奏を早くまとめていくためには、「バンド練習中に個人練習をしない」ことが原則です。「そのフレーズをやりたいのなら個人練習をしっかりとやってこい」と伝えることが、個人だけではなくバンドの成長につながる場合もあります。

一方、楽器演奏に慣れてきた上級者は、バンド演奏中に自分のプレイに心酔し過ぎてしまうことがあります。気持ちはわかりますが、それも「アンサンブルは『合奏』である」という前提から逸脱してしまう可能性があります。楽器の演奏レベルが上がってくると、誰もそのテクニックを披露したくなるものですが、本当にそのプレイがこの楽曲に必要なのか、他のパートの弊害になっていないか…などを判断する冷静な目を持つことが大切です。もちろん、個々のテクニック向上はアンサンブルを良くするために欠かせないポイントですが、バンドはチーム・プレイです。野球部やサッカー部などの運動部でも個人プレイを奨励することはありません。ロックは「自由」ですが、行き過ぎた技術の披露や、他のパートに迷惑が加かってしまうプレイを続けることは、チーム・プレイを妨げ、

バンド・メンバーの間に確執を生んでしまう可能性もあります。良いチーム・プレイを目指し、「One For All」の精神を理解することが、演奏をまとめ上げる場合にも重要なポイントです。

2. 楽曲のデッサンをする

絵のデッサンは、何をどういう風に描くのかを決めることから始まります。まず真っ白いキャンバスに鉛筆などでアタリを取り、人物像なら顔の位置や体の配置など、大まかな構想を練ります。アタリを取る前に目などの細かい部分を書き込んでしまうと、全体の配置を変えたいと思っても、せっかく書いた部分を消したくなってしまいます。楽曲をまとめていく時も、同じように個々のフレーズなどの細かい部分から決め込んでいかに、楽曲に対する大まかな全体像を捉えていくことが先決です。

特にオリジナル曲を作る場合は、誰も知らない完成形に向かって1から作っていくわけなので、まずこの楽曲にはどんなメッセージがあり、それをどんな風に聴かせたいのかという「楽曲のデッサン」を全員で行う必要があります。歌詞やコード進行など、モチーフとなるアイデアを作ったメンバーが主動となって、楽曲の構想を練りましょう。コピー曲の場合も、やはり個々のフレーズに注目してしまいがちになるので、





各フレーズから逆算して「なぜこのフレーズになったのか」「このフレーズはどんな役割があるのか」といったことを推察することによって、楽曲のテーマ（下地）が浮き彫りになります。そうやって何曲もアナライズしていくと、オリジナル曲のフレーズ作りやアレンジを考える時の引き出しにもなっていきます。

5. 役割を大切にする

具体的に「楽曲の土台」となるものは、「テンポ」「キー（調）」「リズム」「テーマやメッセージ」であり、そして最も大事なのがそれらの根本となる「歌詞」です。ポピュラー・ミュージックでは、基本的にメロディーやコード進行、ダイナミクス（※1）、楽曲の構成、各パートのアレンジから、MC（※2）やステージングなども含め、すべての方向性は歌詞に由来します。楽しい歌詞なら元気の良いアレンジを、悲しい歌詞なら切ないアレンジを心がけ、歌詞のメッセージや表現したいことを増幅させて、より伝わりやすくすることが、演奏をまとめ上げるための目的のすべてです。

従って、その歌詞を伝えるスポークスマンであるボーカリストはバンドの王様です。歌が聴こえやすく、ボーカルの邪魔をしないことがアンサンブルの基本であり、自分たちの向かっている方向が間違っていないかを判断する最も重要なポイントになります。誤解しないでいただきたいのは、だからといって「ボーカリストのワガママをすべて通せ」ということではありません。あくまでも「役割」の話です。

既存曲のコピーをする場合でもオリジナル曲をバンドで作っていく場合でも、それぞれのパートが「どんな役割」を持っているのかを考慮することが大切です。バンド・メンバーの全員がしっかりと歌詞やメロディーを把握し、ボーカルを引き立たせるためのアイデアを持ち寄って試行錯誤することが、楽曲をまとめ上げるための最も大切なステップとなります。ドラムにはドラムの、ベースにはベースの…、楽器パートにはそれぞれが担う「役割」があります。それを理解していくためにはいろいろな音楽をたくさん聴いて、歌とメロディーの関係、メロディーとコード進行の関係、テンポやリズムの影響、各パートのフレーズの関連性、音量や音色による聴感の違い、そして、それらを表現するための歌や楽器のテクニックなど、音楽的な要素を多く学んでいく必要があります。まずは、自分のパート以外の演奏に耳を傾けてみましょう。

楽曲のテーマやメッセージを全員で把握し、どんな演奏にすれば「その楽曲らしく」なるのかを考察することが大事です。反対に、楽曲の世界観がバンドで再現されていたり、あるいはしようとしているのであれば、ちょっとした個々のフレーズの間違いや演奏の未熟さなどはさほど気にならなくなります。

3. 聴く側の立場になってみる

画家が絵を描いている最中によくやる大切な行動があります。それは、キャンバスから離れて少し遠くから見ることです。1度冷静になって視点を変えて絵を眺めると、良いところも悪いところも含め、かぶりついて描いていた時にはわからなかった様々な部分に気づくことができます。飾られた絵を見る「観客」側の立場になり、進んでいる方向が合っているのか間違っているのかを常に確認しているのです。楽曲をまとめていく場合も、同じように練習の進み具合によって何度も客観的に眺めてみて、自分たちの進めている方向が正しいのかをチェックしていくことが完成への重要なステップとなります。楽曲のテーマや世界観から演奏が外れていないか、この方向で練習していった自分たちが思い描いていた演奏にたどり着くだろうか…といったことを常に気にしておくことが大切です。

それは、個々のプレイだけではなく、全体のリズムやグルーブ、音色、ダイナミクス、ドラムの作り方や表現など、すべてにおいての判断基準となります。オリジナル曲であれば、さらに歌詞やメロディー、コード進行、パート・アレンジなどが加わりますが、ジャZZのポイントは変わりません。正解は1つではないので、

意見が割れたり判断がつかない場合もあると思います。そんな時こそ客観的に自分たちの演奏を聴いて、メンバーで十分に話し合しましょう。

合同演奏会や大会だけではなく、文化祭のイベントや部活動内の発表会など、軽音楽部の活動にも「誰かに聴かせる」という目標は必ず存在すると思います。初心者であっても聴く側の立場を意識して練習を進めていくことで、楽曲をまとめるためのゴールがはっきりとしてきます。そのためには必ず練習は録音して聴き返したり、誰かに聴いてもらってアドバイスをもらうことが大切です。

4. 常に全体像を考える

油絵ではデッサンの上に絵の具を塗っていくわけですが、やはり細かい部分から描いていくことはあまりしません。例外はありますが、まず下地としてキャンバスに薄い青や黄色などの絵具を全面に塗っていきます。そうすることによって、その上に様々な色を重ねていっても全体を支配する下地の色が絵に統一感を出すからです。さらに言うと、水彩と違って重ね塗りが可能な油絵は基本的に薄い色から塗っていきます。いつでも全体像を大切にしておくと、一部分が大きく逸脱しないようにするためです。常に完成形を頭に思い浮かべながら、コツコツと積み上げていく努力が必要になります。

フレーズは結果論です。もちろん、ギターのリズムや歌詞から曲作りが始まることもあります。本来音楽とはメロディーがあって、そこに歌詞やコード進行が付けられ、リズムが決まるものです。そして、全体の構造が見えてから各パートのフレーズが決まっていきます。既存曲の場合は、

●注釈 ※1：音量の増減や演奏の盛り上がりなどのこと。 ※2：ライブの時に行うおしゃべりのこと。主に演奏が始まる前にボーカルがする。

合奏の完成度を上げる練習方法

アンサンブルに限らず、何か1つの物事を仕上げていくために大事なポイントは、「ミクロ」と「マクロ」の視点です。軽音楽部には楽器を始めたばかりの初心者から経験豊富な上級者まで、レベルに差がある部員が混在していると思いますが、アンサンブルをまとめていくための基本に違いはありません。

バンドで楽曲の練習をする際は、1曲を最初から最後まで通して演奏することが多いのではないかと思います。もちろん、誰かが間違っても止まらずに完走を目指すことや、フル・サイズで演奏して全体像を把握することは大切です。しかし、楽曲をまとめ上げていくためには「フレーズごと」や「セクションごと」に分けて、じっくりと練習することも必要です。前者を「マクロ」とすれば、後者が「ミクロ」です。上級者のバンドであれば自主的に行っているかもしれませんが、それぞれのパートのフレーズやリズムの取り方、タイミングは合っているかなど、1つひとつのフレーズやセクションをじっくりと見直したり確認をすることで、アンサンブルの完成度は劇的に上がります。

合奏の完成度を上げる練習方法

1. 抑揚やニュアンスの確認
2. 入口と出口の練習
3. セクションのつながりの練習
4. リズムの練習
5. パートが欠けた時の練習

1. 抑揚やニュアンスの確認

合奏の完成度を上げるには、一連の流れの中では見過ごされがちな各フレーズのニュアンスを細かく確認することが先決です。機械で打ち込んだような抑揚のない演奏は、やはりつまらなく聴こえてしまいます。感情に添った起伏のあるプレイを目指しましょう。しかし、それぞれが勝手に抑揚をつけていると、トータルなサウンドとして気持ち良く聴こえない可能性があります。メンバー間でそれぞれのフレーズにど

う抑揚をつければ良いのかを、よく話し合みましょう。

また、特にユニゾンやキメ、シンクペーションといった楽曲のフックとなる「仕掛け」部分に気をつけて演奏することで、アンサンブルに締まりが出てバンドに一体感が生まれます。例えば、ギターやベース同士では「どのフレットを押さえているか」だけではなく、運指、音符や休符の長さ、強弱、アクセントの位置、奏法にまでこだわること、フレーズがしっかりとシンクロしていきます。コピー曲の場合、バンド・スコアなどにも演奏上の指定が記されていることがありますが、なるべく音源をよく聴いて耳と感覚でニュアンスを判断していきましょう。

コーラスのハーモニーの確認は、楽器のユニゾン・フレーズと同じように、音程だけではなく音符や休符の長さを合わせることや、ブレスの位置の確認も必要です。特に字ハモ(※1)の場合、「どの文字にアクセントがあるのか」「どんな感情で歌っているのか」「語尾はどこまで伸ばすのか」「どんなビブラートをするのか」までを意識して合わせるようにしましょう。そして最も大事なのが、ボーカリストのように感情を込めて歌うことです。時にはコーラスの練習に時間を割いて、ボーカリストとブレスの位置や抑揚の付け方、アクセントなどを合わせるような確認作業をすることも有効です。

2. 入口と出口の練習

「初めが肝心」「終わり良ければすべてよし」ということわざがあるように、様々なポイントで最初と最後を細かくチェックするとアンサンブルはさらにまとまっていきます。例えば、イントロやエンディング、サビの入口、ソロの入り方と抜け方などの展開部分に全員が共通した神経を使っているか、音を出し始めるタイミングはズレていないか、エンディングは集中して消音するまで雑音を出していないか…といった、人と合わせるべき部分が疎かになっていないかをチェックしましょう。

他にも、ドラムのカウントはしっかりとしているか、歌い出しから音程に気をつけて感情を込め

ているか、ロング・トーンはビブラートや音程に気を配れているか、ドラムのフィルやギター、ベースのオブリガート(※2)は次の小節のアタマまでしっかりと演奏できているかなど、個人のディテールにこだわられる部分は数えきれないほどあります。

これらは個人的な注意点だと思われそうな気がしますが、演奏をしている中ではお互いのそういった細かい配慮がアンサンブルに影響していきます。まずは、うまくできたかよりもやろうと意識しているかが大切です。

3. セクションのつながりの練習

フレーズやセクション自体の完成度を高めるのと同様に、気をつけたいのが「セクション同士の関係」です。場面転換をきちんと行うことによって、楽曲をよりドラマチックに演出することができます。イントロからAメロへの流れは良いか、セクションの変わり目は全員でしっかりと合っているかなど、「つなぎ」の部分を大事にしましょう。

演奏のタイミングを合わせるには、ドラマーの腕の振りをよく見るのが効果的です。ほとんどの場合、セクションの変わり目でドラマーはフィルを演奏し、次の小節のアタマにシンバルを叩きます。シンバルを叩く前には必ず腕を



振りかぶるので、それを見て一緒に演奏を合わせるようにしましょう。極端な話、ドラムのフィルが少々ハシったりモタったりしても、次の小節のアタマが全員揃っていればOKです。

さらに、タイミングだけでなくダイナミクスや感情面までも考慮してセクション同士のつながりを確認しましょう。楽曲をドラマチックに演出するには音量や感情の盛り上がりなどのギャップが必要です。クールなAメロから激しいサビへとカッコ良く移行できているか、全員が同じ気持ちでセクションを変われたか…といったことを確認しながら、何度もつなぎ目の練習をしましょう。うまくできたかの判断基準は演奏していて「グッときたか」です。

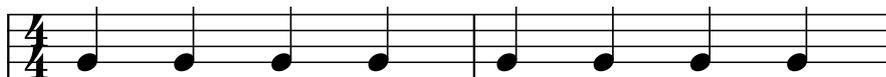
4. リズムの練習

ポピュラー・ミュージックにとって「リズム」は要です。リズム練習は個人でもたくさんするべきですが、アンサンブルをまとめるためにはバンドでのリズム練習も必須です。ギターを弾く時のストロークを合わせたり、足や体で取っているリズムを合わせたり、ステップを踏んでみるなど、必ずリズムとともに演奏することを心がけましょう。

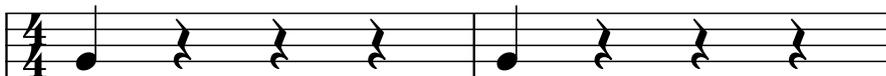
まず、何よりも合わせなくてはいけないのは「1拍目」です。音楽理論上は、どんな拍子の楽曲でも各小節の1拍目は「強拍」となり、リズムを合わせる上で最も重要な部分になります。「1拍目がズレないようにしていれば、必然的にアンサンブルはまとまる」といっても過言ではありません。また、ロックでは「バック・ビート」に重きが置かれます。バック・ビートとはロック特有の感覚で、4分の4拍子では2拍目と4拍目にあたります。基本的にはドラムのス

ネアが叩かれている場所なので、普段からスネアを意識して音楽を聴いたり、リズムを取るようになっておくと良いでしょう。特にボーカリストはこの感覚に弱い人も多いので、スネアの位置に手拍子をしながら歌う練習をすると効果的です。

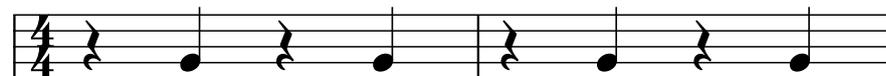
基本的にテンポやリズムをキープすることは、それぞれが意識して行うべきことであり、誰かに頼るものではありません。個人でもバンド単位でも、



譜面1 ▲メトロノームの使った練習法／通常の4分音符



譜面2 ▲1拍目のみ出す



譜面3 ▲2拍目と4拍目に感じる



譜面4 ▲8分音符の裏に感じる

テンポ感とリズムを強化する練習は必須項目です。リズム練習にはメトロノームを使用します。4分の4拍子の場合、普通に4分音符を鳴らすだけでも良い練習になりますが、例えば、1拍目だけ鳴らして演奏すると小節のアタマを意識する感覚や、しっかりとテンポをキープしなければいけないという気持ちが生まれてきます。また、2拍目と4拍目だけにしてメトロノームをスネアのみで演奏すると、バック・ビートを感じるクセがつかます。他にも8分音符の裏拍に鳴らしたり、3連符の3つ目、16分音符の4つ目に鳴らして練習すると効果的です。

こういったメトロノームを使用する練習は、リズム感やテンポ感を養うだけでなく、何かを聴きながら歌ったり演奏することへの練習にもつながります。

5. パートが欠けた時の練習

バンド練習に誰かが来られなくなった時こそ「練習にならない…」と諦めず、反対に好機と捉えて普段できない練習をしましょう。

まず、アンサンブルの肝となるドラマーがいない場合ですが、そのままドラムなしでメトロノームも使わずにいつものように楽曲を演奏してみましょ。普段テンポや合わせるポイントをドラムに頼りきっていることが自覚できると思います。自分でしっかりとテンポをキープし、他のメンバーとズレないようにする意識がより芽生えます。ドラマーがいてもいなくてもそれぞれが責任を持ってキープすることを目指しましょう。

ベーシストがいない場合は、ギターが2人いるのであれば、どちらかがルートだけでも良いのでベースのフレーズを弾いてみてください。普段、ベーシストがいかにかドラムと一体化することを意識しているかがわかると思います。キーボードでベースのフレーズを弾いてみても良いでしょう。これはすべてのパートに言えることですが、他のパートのフレーズを演奏してみると、自分のパートとの関係性が理解できたり、各パートがバンドの中でどのような役割を担っていて、何に気をつけているのかといったことがよくわかります。他のパートのフレーズを知ることは、アンサンブルをまとめるための大切なポイントです。

ギタリストやキーボーディストなどの上モノ・パートがいない場合は、リズム練習のチャンスです。土台となるグルーヴをしっかりと固めるため、メトロノームを使ってじっくりと練習しましょう。良い土台ができていれば上モノ・パートがさらに生きてきます。ボーカリストがいない場合は、楽曲の構成や小節数などがわかりにくくなることもあるので、ここからボーカルが入るぞ、次からサビだぞ…などとメンバー間でアイコンタクトを取ったり、声や手で合図を出したりして、お互いに助け合いながら完走を目指しましょう。きっと「全員で楽曲を奏でる」という意味がわかってくると思います。

これらはメンバーが欠けた時以外でも効果的な練習です。普通に楽曲を演奏しないとなつまらなく感じるかもしれませんが、特に上級者のバンドなど、もうワンランク上を目指すバンドにはかなり効果があります。



※2：他パートのフレーズの間に入る「合いの手」のようなフレーズのこと。

イメージを共有して具体化する

運動部の活動を思い返してみると、個々の基礎体力作り→個人的な技術向上→フォーメーション・プレイの練習→紅白戦などの模擬試合→他校との練習試合…という段階を踏んだ練習が行われ、最終的に大会などの「本番」を目指していると思います。これを軽音楽部に置き換えてみると、「個々の基礎体力作り」に相当するのはリズム・トレーニングやボイス・トレーニング、そして、音感や音楽理論や楽器知識の習得といった、音楽を奏するための基礎的な部分の練習になります。「個人的な技術向上」は歌や楽器の実技です。そして、「フォーメーション・プレイの練習」がアンサンブルの練習に当たります。

フォーメーション・プレイの練習として、例えば野球部では、ダブル・プレイの練習や満塁時にフライが上がった時などのケース・スタディーが繰り返しシミュレーションされ、チーム・プレイの強化を計ります。サッカー部の三角パスやバレーボール部のAクイックの練習なども同様です。つまり、アンサンブルを強化することとは「楽曲をまとめ上げていくためのチーム・プレイの練習を行う」ことなのです。ちなみに、「紅白戦などの模擬試合」は校内ライブ、「他校との練習試合」は合同演奏会です。

しかし、音楽の場合「演奏のクオリティー」

も問われます。それはオリジナル曲でもコピー曲でも同じです。バンドの評価は「上手に間違えずにできたか」だけではなく、チームとして「1つのことを表現できたか」がポイントになります。それには演奏技術面以外で合わせるべき「イメージ」をどれだけ具現化できたかによります。

イメージを共有して具体化する

1. 感情を込めて物語性を表現する
2. 視覚的なイメージを共有する
3. ステージでの表現を考える

1. 感情を込めて物語性を表現する

前述しましたが、ポピュラー・ミュージックでは「歌詞」に大きな比重があります。歌詞があって演奏があるという構図であり、歌詞の内容を全員が把握することはアンサンブルにとって最も大切なことの1つです。歌詞には基本的に「物語性」があります。さながら、ショート・ショートの小説や短い映画のようなものです。しかし、どんなアクション映画も戦闘シーンや爆破シー

ンばかりが続いているわけではありません。人間ドラマやフツと息をつくシーンがあるからこそ、派手なアクション・シーンが生きてきます。逆にソフトな恋愛映画でも、男女が知り合って何の事件もなく淡々とまっくいく…という物語はやはり面白くありません。紆余曲折があって、起承転結や「ヤマタニ」があるからこそドラマチックな物語となり、人は感動するのです。それは音楽も同じです。どんな曲調の楽曲であっても、ストーリー性のあるドラマチックな物語を歌詞に沿って表現することが大切です。

映画と同様に、音楽でも大事なものは「演出」です。優れた歌詞であっても演出が効果的でなければ台なしになります。まずは歌詞をじっくりと読み、ここはどういったシーンなのかを考える必要があります。例えば、「秋の夕暮れ」のような歌詞であれば、「少し肌寒い」「木枯らしが舞っている」「綺麗な夕焼け」などの情景が浮かびます。その情景に合うような演奏を目指すわけですが、なかなかおそれとはいきません。しかし、演奏できるかできないかは大きな問題ではなく、まず「そういった感情を持つ」ことが大切です。ピアノのレッスンで、先生が「そこは木枯らしが舞う感じで〜」などと生徒に話すのと同じです。実際のところ、クラシックでは「哀愁を持って」「歌うように」「愛らしく」「火のように」「荘厳に」「生き生きと」などの発想記号があります。しかし、ポピュラー・ミュージックの譜面にはそういったことは一切書かれていません。それは、ポピュラー・ミュージックが感情の表現をプレイヤー自身が考えて行う音楽だからです。

歌詞があるセクションだけではなく、イントロやギター・ソロ、エンディングなどがどんなシーンなのかを想像することも大切です。有名な「Smoke On The Water」(※1)のギター・リフによるイントロは、夜の湖面に広がる火事の煙を表現しているそうです。歌詞を読めばそのイメージが湧いてくると思いますが、そう思って楽曲を聴くと、ギターだけではなくドラムやベースのアプローチの仕方も何となく理由がわかります。

他にも、例えばギター・ソロは「火のように」、



●注釈 ※1：イギリスのハード・ロック・バンド、DEEP PURPLEの1972年のヒット曲。



サビは「生き生きと楽しく」といった感情や、この物語のクライマックスはどこなのか、場面転換はスムーズに行われているのか…といった物語性を楽曲に持たせることが、演奏をドラマチックに仕上げる近道です。

2. 視覚的なイメージを共有する

「映画的なイメージを持つ」ということは、音楽を「視覚的に」捉えるということです。身近なものとしては、ミュージック・ビデオ（以下、MV）やライブ・シーンを想像してみることも大きな手助けとなります。既存の曲であればすでに本物があるかもしれませんが、「この楽曲のMVを自分たちが作るとしたらどんな映像にするのか」をバンド・メンバー全員で話し合ってみると、楽曲の細かなイメージを共有することに効果的です。

先ほどの「Smoke On The Water」のイントロはギター・リフのみで始まり、次にドラム、そして、ベースとキーボードが重なってくるのですが、その昔、この楽曲をコピーしていたバンドに「イントロの場面をどんな映像にする？」と聞いた際、「飛行機が飛んでいる」「薄暗い森の中の一軒家」「ギターの手元のアップ」「怪物が目覚めるところ」と、多種多様な意見が出ました。メンバーそれぞれがこういった異なるイメージで演奏しては、同じ感情を持って1つの世界観を演出することはできません。「こういう歌詞だから、夜の湖面に広がっていく火事の煙をイメージしてごらん」と言った後の彼らの演奏は、出来不出来はともあれ、イメージが共有されて気持ちの込められたアンサンブルになります。

した。十人十色なので、同じ楽曲を聴いてもそれぞれ視覚的なイメージが異なるのは当然です。それを話し合っ共有する方向に持っていくだけでアンサンブルはまとまっていきます。

視覚的なイメージと言えば、ライブの照明も同じです。照明スタッフは、曲調や歌詞の内容から配色や光の当て方を決め、アレンジや仕掛けにいかに関心して楽曲の世界観を膨らませるか、バンドをカッコ良く見せる（魅せる）かを考えています。ライブのステージを想像して「この場面はどんな照明が合うだろうか」と考えることも、イメージの共有に一役買います。MVの例と同じように「どんな照明が欲しい？」とバンドに聞いて、様々な意見を出させて話し合わせると、その照明に見合う演奏を心がけるようになります。「暗転中、濃い青のピンスポットが当たりながら、ギタリストがリフを弾いている」「9小節目からはドラムの16分音符のハイハットの刻みと共に、ドラムにも濃い青のピンが当たる」「17小節目から地を這うような8分音符のベースが重なると、全体がふわーっと赤くうすら明るくなっていく」「ボーカルが入ったら、パッと明るくなって、ボーカリストにピンが集中…」というようなステージを思い浮かべてみることで、「Smoke On The Water」のイントロがさらに雰囲気を持った演奏に変化したような気になると思います。

3. ステージでの表現を考える

ステージングはライブにおける重要なポイントですが、反対に最も難しい部分だとも言えます。ステージをとことん狭しと駆け回り大騒ぎする

ようなパフォーマンスは盛り上がりませんが、無理な動きをするばかりがステージングではありません。全員で楽曲のリズムに合わせたり、セクションごとの世界観に合わせた動きをするだけで、ステージでの「見た目」はかなり変わります。まずは、大きなパフォーマンスをすることよりも、「楽曲のリズムに合った体の動き」を目指しましょう。最もシンプルなのは、ドラムのスネアの位置に注目して、通常時は2拍4拍のバック・ビート、4つ打ちの時は4分音符、ハーフ・タイムの時は3拍目…と、ドラムが強調しているビートに乗ってリズムを取ることで。他に、ブレイクやキメ、シンクレーションなどの部分に体ごとアクションを付けたり、自分が出している全音符や細かいアクセントを体で表現するといったことも有効です。

また、ステージングで忘れがちなのが「表情」です。もちろん、一生懸命表情を作っても遠くからではわかりづらく、体の動きの方が目立ちます。しかし、表情を作ることが感情表現をするための「入口」となります。とはいえ、作り笑いや嘘泣きをしようということではなく、楽曲に「同化」して楽しい場面では思いっきり笑顔をする、切ない歌詞では目を伏せて物憂げな表情をする…といったことを心がけていれば、自然と体全体で感情を表現することができるようになります。まずは鏡に向かって顔の表情作りから始めてみましょう。特に、ボーカリストは顔の筋肉の使い方で口腔内の大きさが変わり、声のトーンも変わっていきます。例えば、「好きです」という歌詞を満面の笑みで言うのか、それとも泣き出しそうな顔で言うのかでは大きな差が出ます。もちろん、既存の曲の場合であれば、歌詞の文脈を考えて「あなたに会えて世界が輝きだした。好きです」という物語なのか、「君のことが今でも忘れられない。好きです」という物語なのかを判断する必要があります。当然ながら、そういったボーカリストと同じ気持ちでメンバー全員が演奏しようとすれば、その感情はきっと何倍にもなって客席に届くことでしょう。

そう考えると、バンドのアンサンブルを良くするには、技術的な鍛錬と音楽的な知識の習得の他に、多情多感な人間になることも大切になってきます。友情や恋愛といった人間関係に思い悩むこと、美しい風景や出来事に感動すること…様々なことに出会い、一喜一憂し、感情豊かな人間になることで喜怒哀楽を演奏で表現できるようになっていきます。ティーン・エイジャーにしかできない感情表現を目指しましょう。

第8回 愛知県高等学校軽音楽大会

2020年12月27日 名古屋文理大学文化フォーラム 中ホール

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、今年度に発足した愛知県高等学校軽音楽連盟とのダブル主催という形で大会を開催。検温や定期的な換気をはじめ、参加は出場者のみとし、マスクの着用や歌唱時のウインドスクリーンを全員に配布するなどの対策を万全に行い、予選を勝ち抜いた23バンドが練習の成果を発揮しました。



愛知県立瀬戸窯業高等学校 PSLMC
顧問 佐藤大介

愛知県高等学校軽音楽連盟・事務局長の佐藤大介（瀬戸窯業高）です。コロナ禍の中、なんとか開催することができた第8回愛知県高等学校軽音楽大会についてレポートします。

本大会は、愛知県高等学校軽音楽連盟が4月に設立されて初めての大会で、全国学校軽音楽部協会との共催ではありますが、記念すべき愛知県連盟初の主催大会となりました。

開会のあいさつでは、全国学校軽音楽部協合理事長あいさつに続き、われらが愛知県連盟の中村弘之委員長があいさつをされました。愛知県連盟は、4月当初11校でスタートしましたが、その設立までに、いや今に至っても大変な苦難がありました。2年も前から設立準備をしてきましたが、役員をお願いした学校の顧問が音信

不通となったり、一緒に連盟運営をやっていたと思っていた顧問の先生が軽音楽部のない学校へ転勤となったりと必ずしも明るい展望が描けるものではありませんでした。

そのような中でも、中村委員長は「連盟加盟校が少なくても大いなる船出をしよう」と孤軍奮闘に近い状況でも、私たちが引っ張ってくださいました。委員長あいさつは、連盟初主催の感動と先生のご苦労が思い出され、聞いていて胸が熱くなりました。

さて、大会のほうは、エントリーは26校でしたが当日までに3校の辞退がありました。23バンドの演奏後、表彰式については中止の議論もありましたが、簡略化したものやって良かったと思いました。前日の中部大会で賞を独占した愛知県勢には勢いがあり、両大会どちらとも入賞する学校が3校もありました。夏の大会が中止になったこともあり、どのバンドも強い思

い入れをもって大会に臨んできているように感じました。そのせいか私自身演奏に聴き入ってしまうことも多かったように思います。

各校の演奏を話題に、いろいろな先生と私自身交流をすることができました。学校によっては、大会終了後に評価を聞きに来てくれる生徒もいます。ろくなアドバイスもすることができず、汗をかきながら必死で言葉を絞り出したのも良い思い出です。

大会終了後には、顧問ミーティングがありました。中村委員長より、連盟加盟校が27校、在籍部員数が1,500名を超えたことが報告されました。現在、愛知県には約80校に軽音楽部系の部活動があります。まだまだ加盟率は3割を超えただばかりです。今後は、委員長一人に任せきりにならない連盟作りを多くの顧問の先生と成しえていきたいと思いました。

出場バンド / 出場校

ECLIPSE / 東邦高等学校
 ステハゲ / 名鉄学園杜若高等学校
 Lily drop / 中部大学春日丘高等学校
 朝凧グラビティ / 愛知県立昭和高等学校
 whipp's / 星城高等学校
 . (ピリオド) / 愛知県立愛知商業高等学校
 円卓 of らーめん / 愛知県立半田高等学校
 チョットオンチー / 愛知県立岩倉総合高等学校 **グランプリ**
 マシュマロたべにきました。 / 愛知県立旭丘高等学校
 girasol / ルネサンス豊田高等学校
 Advank / 東海学園高等学校 **奨励賞**
 ロウタス / 菊華高等学校 **準グランプリ**
 Kaleidoscope / 愛知県立明和高等学校
 あっがるばい / 名古屋市立名古屋商業高等学校
 matteKD / 愛知県立瀬戸窯業高等学校 **稲沢市長賞**

Indigo Society / 名古屋国際中学校・高等学校
 ID:sick / 愛知県立瑞陵高等学校
 Souilty Pot / 名古屋市立名東高等学校 **第3位**
 band P / 名古屋市立緑高等学校 **奨励賞**
 キャット&スメル / 日本福祉大学付属高等学校
 lupus / 名古屋市立桜台高等学校
 MiNor SKill / 名古屋市立山田高等学校
 すすらん / 名古屋経済大学市邨高等学校 **奨励賞**

ベスト・プレイヤー賞

ボーカル: 若杉真菜さん / 愛知県立瀬戸窯業高等学校
 ギター: 宮平春香さん / 愛知県立岩倉総合高等学校
 ベース: 鈴友花さん / 名古屋経済大学市邨高等学校
 ドラム: 清水碧斗くん / 菊華高等学校
 キーボード: 吉田せりさん / 愛知県立瀬戸窯業高等学校

写真はグランプリを受賞した愛知県立岩倉総合高等学校のチョットオンチーです



名古屋市立名東高等学校 軽音楽部 顧問 本夢剛人

「部活動としての軽音楽部」という信念のもとに、日々練習を重ねてきた生徒たちに、その成果を発揮させる舞台を与えてあげたい。今年度余儀なくされた理不尽な生活と懸命に向き合いながら、努力をしてきた部員たちに対する顧問の共通する思いであったのだと考えています。

愛知県高等学校軽音楽コンテスト(現:愛知県高等学校軽音楽大会)は、特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 三谷理事長の牽引のもと、2017年2月に第1回大会が開催され、今大会で、8回目となりました。その間、2018年頃より、「愛知県高等学校軽音楽部連盟」の立ち上げ準備が進められ、現連盟委員長の中村弘之先生をはじめ、長年愛知県下の軽音楽部を指導し支えられてきた先生方の尽力により、2020年4月に発足

しました。今大会は設立後、初めて連盟主催の大会となりました。未曾有の事態の中での開催ではありましたが、各顧問の先生方をはじめ、関係の方々にとっては、また違った意味でも感慨深い大会となったのではないかと感じています。

今大会が開催される2020年12月時点で、連盟加盟校は27校、総部員数約1,500名となりました。その一方で、今大会の出場枠は各校1バンドのみとなりました。各校では、バンド同士が、一緒に目標を目指して過ごすチームメイトでありながらも、1バンドの出場枠をかけて、真剣に切磋琢磨し、ライバルとして、しを削り合ったのではないかと思います。名東高校では、大会側に音源審査を委ね、愛知県の頂点を目指しその頂上に立つために、まず乗り越えるべきライバルは、お互いのバンドなのだと、真剣に意識していました。

軽音楽部が学校の部活動である以上、野球・

サッカー等の各部活動と同様、根本的な目的は教育であり、活動の内容は手段にすぎません。入部の段階から「音楽は手段であり、目的は人間として成長すること」である、と明言してきました。実際に、大会で上位入賞を目指していく中で、彼らの顔つきは、みるみる変わっていったように思います。

結果が得られれば、結果を褒める。結果が得られなければ、過程を褒める。評価競技である以上、順位は客観的に付きますが、まずは自分たちがイメージした内容、出そうとしたものが出し切れたか、というのが大切なのではないかと思います。今大会では各校、各バンド、それぞれ取り組んだ成果が十分に発揮された演奏を聴くことができました。「満足した愚か者であるより、不満足なソクラテスであれ」。人が何かに真剣に挑み、闘う姿は本当に美しい。そう感じさせてくれた2日間でした。

第3回 高等学校軽音楽コンテスト 中部大会

2020年12月26日 名古屋文理大学文化フォーラム 中ホール

夏の大会は感染症の流行拡大で中止となりましたが、今冬は入場時の検温や定期的な換気、来場者を出場校のみにし、マスクの着用や歌唱時のウインドスクリーンを全員に配布するなどの対策を万全に行いながら開催。日頃の練習の成果を発揮するべく、愛知・岐阜・石川・富山・長野から13校／17バンドが出場しました。

岐阜県立可児高等学校 軽音楽部
顧問 山田勘太郎

中部大会には、岐阜県からは2校が参加しました。我が可児高校は初参加、経験も実力も乏しい私たちを温かく受け入れてくださったことに感謝申し上げます。

結果的には、岐阜県勢は惨敗という形で終わりました。1つ1つの音やビートを丁寧に演奏してはいましたが、やはりそこは音「楽」、バンドアンサンブルや会場全体を巻き込んでのグルーブを醸し出すようなことまでは到底できず、課題の多い結果でした。

優勝した愛知県勢には私たちとは逆にそうした「楽」の部分が確かにあったのだと感じました。バンド内のアイコンタクト、身体全体でのリズムキープ、何よりその表情、ディスタンスを保つためにまばらに人が入った会場であったものの、聴き入って私も身体を揺すって一体

となってしまうということが一度や二度ではありませんでした。「他県がいるからこそその緊張感や特別感、自分たちは素晴らしい場所に立っているという感覚がありました」との生徒の言葉。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

私事になりますが、私は可児高校に転勤してきたばかり、また音楽に関しては素人で、軽音楽部の顧問になったのもたまたまです。軽音楽部は今年度の1年生を最後に部員募集を停止し、彼らが3年生になる令和4年中に廃部になるということが、昨年度末に決まったのだそうです。もちろんそのような決定を知らずに私は顧問になりました。

3年生はほとんど活動できずに引退していききました。例年は秋に行われる文化発表会で軽音楽部ライブを披露していたそうですが、今年中止、何もせずの引退でした。そもそもなぜ軽音楽部が廃部になるのか、その理由は生徒には

(私にも)知らされていません。そうでなくとも騒音問題や活動場所問題で疎ましがられている軽音楽部は、廃部にしやすかったのではないかと、部員は不満を漏らします。

別のオンライン大会で会場を探しているときは、地域のライブハウスやスタジオにまで「この地域は音楽が盛んではない」という偏見(?)により会場借用を断られることが続きました。新型コロナを警戒しているという事情もあるのですが、学校からも地域からも冷遇されてしまっているようです。

出会う間もない部員たちに、逆境に負けずに少しでも部活動の楽しさや音楽の楽しさを味わって欲しく思っていたところの中部大会への参加、身も心もホットになりました。

「他校の演奏のような自由で広い世界に足を踏み入れられるようにしていきたい」と参加した部員は話しています。生徒も、「不自由で狭い」現状を打破するヒントを得たようです。

あさがお／名古屋経済大学市邨高等学校

スピネル／岐阜県立可児高等学校

band P／名古屋市立緑高等学校 奨励賞

Noah／名古屋国際中学校・高等学校

THELAST!E／愛知県立旭丘高等学校 奨励賞

ボニカ'82／星城高等学校

Souly Pot／名古屋市立名東高等学校 第3位

Pa:STELLA／石川県立羽咋高等学校

エゴ箱／愛知県立旭丘高等学校 準グランプリ

AMeNoHi／富山県立富山工業高等学校

チョットオンチー／愛知県立岩倉総合高等学校 奨励賞

√BAKE^2／岐阜県立斐太高等学校

カカオ 52%／愛知県立岩倉総合高等学校 **グランプリ**I Scream／名古屋市立名東高等学校 **稲沢市長賞**

beginner's luck／星城高等学校

Vivace／高岡第一高等学校

Adam's apple／長野県上伊那農業高等学校

ベスト・プレイヤー賞

ボーカル：水谷充里さん／愛知県立岩倉総合高等学校

ギター：久野真寛くん／名古屋経済大学市邨高等学校

ベース：坂下紘夢くん／富山県立富山工業高等学校

ドラム：水野美穂さん／名古屋市立名東高等学校

キーボード：長縄歩里さん／名古屋市立名東高等学校

写真はグランプリを受賞した愛知県立岩倉総合高等学校 カカオ 52% です

愛知県立岩倉総合高等学校 フォーク部
顧問 栗原 友

岩倉総合高等学校フォーク部顧問の栗原です。今大会には、2バンド出場させていただきました。本校はカホンを使用し、アコースティックの編成を軸としているところが特徴的な学校です。

初めに、このような状況の中で大会の開催を決定してくださった全国学校軽音楽部協会、並びにかけはし芸術文化振興財団の尽力に心から感謝いたします。市内での演奏会は軒並み中止になり、練習したことを発表する場を失っていました。感染対策に協力してくださった顧問の先生方や部員の皆さんにも感謝します。

夏の大会も中止になり、3年生には悔しい想いを強いる結果となりました。引継ぎもままならないまま、3年生が引退し、不安や喪失感の多い半年間でした。1年生も練習しても、発表の場が

なく、モチベーションをなくしてしまう生徒も少なくありませんでした。

そのような厳しい環境の中でしたが、中部地区の多くの高校から参加があり、互いに刺激を与えあう大会になったと感じています。新型コロナウイルスはどれだけ生徒を苦しめるのかと煮え切らない想いがありましたが、その思いを払拭する演奏と勇姿を見ることができました。私は生徒たちの力を見くびっていたと反省しました。苦境の中にあっても、彼らは曲とバンドに真摯に向き合い、最大限の演奏をしてくれました。また、生徒たちも久しぶりに他校の演奏を肌で感じて、緊張感と焦燥感を感じている様子でした。

演奏技術は年々向上している傾向にあります。1年生でも驚くような演奏をする生徒が増えています。互いに音を聴き合って、アンサンブルとしての厚みや調和を意識する深さをバンド内で共有されている様子が見受けられました。さらに、先輩から後輩へと受け継ぐ部活動に

なってきた印象がありました。1つのバンドとしてではなく、学校として強くなるという意識が見えていました。

私たちの高校は去年の夏にも先輩方が功績を残し、その伝統を引き継ぐべく、練習を重ねてきました。正直去年は赴任したばかりで、漠然と「すごいな」という想いしかなく、共感や応援は表面的なものでした。しかし、今回は良く知っている学年ということもあり、彼らの努力や苦悩をすべてではないですが知ったうえで臨んだ大会でした。すごく遠いと感じていた先輩という壁をしっかりと越え、自分たちの演奏を作り上げることができていました。

最後に、この新型コロナウイルスの影響を通して、人前で演奏できることに、いかに周りの人の協力が大切か、必要かということを生徒のみならず顧問である私も痛感しました。今後も、演奏する機会がいただける感謝を忘れずに活動していきます。



デジレコ編集部があなたの高校に参上!

DIGIRECO BAND CLINIC



第92回 桜美林高等学校 軽音楽部

〒194-0294 東京都町田市常盤町3758

第92回目のデジレコ・バンド・クリニックの実施校は東京都町田市にある桜美林高等学校です。男女共学の私立中高一貫校である同校は部活動が盛んで、軽音楽部も「令和元年度 第42回 東京都高等学校文化祭軽音楽部門中央大会」でのグランプリの受賞をはじめ、様々な公式大会で入賞するなど、活発な活動が行われています。早速、軽音楽部の様子を顧問の佐竹修子先生に伺いました。

一 軽音楽部の歴史を教えてください

佐竹修子先生 (以下、佐竹)：私が本校に着任する前から軽音楽部は存在していたのですが、活発な活動は行われておらず、部員数も「120人くらいですかね…」という感じで、曖昧な様子でした。部活動登録はしているけれど、活動には参加していない生徒も多くいたようです。私は平成7年度から顧問

になったのですが、顧問になった最初の年の夏合宿で、ある問題が起こってしまい、残念なことに軽音楽部を廃部にする話が浮上したんです。それを受けて、相当数の部員が退部していきました。残ったのは1バンド分くらい…5、6人だったと思うのですが、その生徒たちが「先生、軽音楽部を潰したくありません。僕たちで何とかしますので、活動を続けさせてください!」とお願いに来たんです。そこで、私が付きっきりで指導することにし、管理職の先生をお願いをして、条件付きではありますが、部が存続することになりました。そこから紆余曲折があり、何もかもが手探りの状態でしたが、生徒たちと考え、あれこれと工夫を凝らしながら、学校で認められる部活動の1つになるべく、頑張ってきました。その後、たくさんの軽音楽部の顧問の先生方にお会いすることができ、つながりもできていって、合同ライブにも呼んでいただいて…という感じで活動の幅を広げていき、徐々に力をつけてきた、という感じです。

一 現在の部員数とバンド数を教えてください

佐竹：部員数は1年生と2年生を合わせて、77名です。バンド数は組み替えもあるのですが、現在は25バンドが活動しています。男女比は女子生徒の方が多く、毎年、7:4くらいの割合で女子の部員

が多い傾向にあります。

一 新入部員の募集方法を教えてください

佐竹：生徒会で規定が決まっているので、部活動紹介の期間に勧誘を行い、入部を受け付けています。特に入部テストや条件などは設けていません。ただ、すごく誤解されやすい部活動なので、三谷理事長がお話して下さった「軽音楽部員としての心得」のような内容を理解してもらい、保護者の方々にも同意していただいた上で、入部を認めています。

一 バンドを組むにあたり、メンバーの決定方法やバンドを組む時期、メンバーの途中変更の可否などは、どうされていますか

佐竹：毎年、自由にバンドを組ませていたのですが、それだと、うまく組めない生徒がいたり、余ってしまうパートが出るなどの問題が起こってしまうので、今年は趣向を変え、バンドを組ませました。まるで、お見合いのような感じで、好きなアーティストやお気に入りの曲、どんなバンドが組みたいのか、などを部員の前で1人ずつ発表し、その後、「〇分間、自由に話しかけて、仲良くなりましょう!」という感じで、バンドを組むキッカケとなる会を設けたんです。そこで出来上がったグループを「仮バンド」として、「うまくいけば、そのまま継続して活動しても良いし、メンバーを交代しても良いよ」ということにしたら、今年はちょうど1年生バンドの半分が残り、半分が新しいバンドになりました。変に我慢をしたまま活動を続けていると、ギリギリになってからお互いに嫌な思いをするので、「同じ軽音楽部員



としては仲良しだけれど、音楽性の面で違いがあるから、ちょっとバンドを組み直してみようか？」という感じで顧問の私が提案し、バンドを組み替えることもあります。1年生がバンドを組むのは3年生の引退後なので、毎年「6月までにはバンドを組みましょう」という風に話しています。

— 普段の練習時間や活動日を教えてください

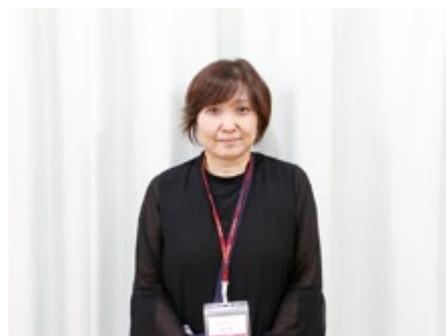
佐竹：活動日は火曜・水曜・木曜・土曜の週4日です。練習時間は今年は新型コロナウイルス感染症の影響で「平日は2時間／土曜日は3時間まで」としています。練習場所は視聴覚室で、そこではアンプやドラムセットを使ったバンド練習をすることができます。その他、普通教室も2部屋を使用しており、そこでは個人練習をしたり、バンド練習を終えての話し合いや作詞など、アンサンブルの練習以外の活動をさせています。視聴覚室の利用方法はシフト表を作成し、ローテーションで各バンドが使用しています。1バンド／30分ずつで回しているため、週4日の活動日のうち、週に1回、バンド練習ができるか、できないかといった状態です。

— 貴校らしいユニークな練習方法はありますか

佐竹：私自身が他校さんの活動を参考にさせていただいているくらいなので、「本校らしい」というのは特にないのですが、バンド練習をお互いに見学して、いろいろと意見を言い合うようにしています。特に大会の時期が近づいてくると、本選に出場できるバンドと、出られないバンドの間にテンションの差ができてしまいます。そこで、「本選に出場できるバンドは桜美林の代表なんだから、皆でそのバンドを作り上げていこうよ！」という風に話しながら、演奏の講評を伝えたり、アドバイスをしたりして、お互いに切磋琢磨させています。

— 上級生から下級生への指導はさせていますか

佐竹：今まで、なかなか指導体制を築くことができずにいたのですが、今年からは「パディー制」を導入して、取り組んでいます。「●●バンドには△△バンドが付く」という形で、先輩が後輩の指導に当たり、バンド練習のシフトもそれに沿うような形で組んでいます。ギターやベースの音の出し方からアンプでの音作りの仕方など、とても丁寧に教えてくれているので、顧問としても助かっています。



▲顧問の佐竹修子先生



— 一年間の行事予定を教えてください

佐竹：今年はコロナ禍でしたので、例年の行事予定になるのですが、4月は新入生歓迎ライブ、5月は本校で行う合同ライブと軽音楽連盟主催のコピバン大会、6月は3年生の引退ライブ、7月から8月にかけて、夏合宿や軽音楽連盟主催の都大会、民間の各種大会に参加しています。9月は文化祭、10月は特に行事はないので、合同ライブに参加させていただくことが多いです。11月は秋の大会と合同ライブ、12月は生徒会企画のクリスマスライブに参加しています。1月から2月は民間大会や合同ライブに参加することが多く、3月は卒業ライブを行っています。また、ユニークな取り組みとしては、毎年夏か春のどちらかで、同窓会ライブを開催しています。本校の軽音楽部のOBやOGと現役生によるライブで、中には懐かしい先輩たちが駆けつけてくれることもあり、和やかな雰囲気での演奏会です。

— 今後はどのような軽音楽部にしていきたいですか

佐竹：大会での入賞も目標の1つですが、たくさんの方々へ「応援しているよ！頑張っね！」と言われるような、皆さんに愛される軽音楽部にしたいね！」と、生徒たちに話しています。先輩や後輩との関係もお互いのことを思いやれるような集まりであって欲しいですし、音楽の楽しさや素晴らしさを伝えられる人たちになって欲しいと思っています。

— 軽音楽部のモットーや部則はありますか

佐竹：モットーは「ハートはプロのミュージシャン」という風に話しています。「音楽を愛する者」という意味では、高校生であってもプロ並みに考えて欲しいですし、反対にプロのミュージシャンというのは決して自慢したり、奢ったりすることなく、常に謙虚な気持ちでいて、楽器や機材をはじめ、時間も大切にしていると思うんです。1つ1つの演奏の機会を大切にしようし、軽音楽部員もそうであって欲しいので、モットーに掲げています。部則としては校則に準じて、学校の決まりをきちんと守るように指導しています。

— 顧問として苦労したところや、やりがいを感じることを教えてください

佐竹：苦労している点は周りの人たちから「チャラチャラとしている」とか「授業態度が良くないことが多い」というような誤解をされてしまうところでしょうか…。「皆で誤解されないように頑張っていこうね！」と話しても、大人数の部活動であるため、どうしても気持ちが揃わない生徒がいるので、そのあたりに苦労を感じることがあります。一方のやりがいについては、生徒たちが作っているオリジナル曲や奏でている音楽というのは本当に最高で、どれも私の宝物です。いつもはふざけてばかりいるような男子生徒が、「こんな恋愛の曲を作っちゃうの？」という風に驚くこともありますし、頑張っている姿に感動して、泣いてしまうこともあるくらいです(笑)。コピー曲も、毎年新しい曲を知ることができるので、生徒たちのおかげでたくさんの音楽に触れることができている。軽音楽部は本当にクリエイティブな部活動なので、大変な部分もあるのですが、「私から軽音楽部の顧問を取ってしまったら、ボケちゃうかも？(笑)」というくらいに顧問も楽しませてもらっています。

— 誌面を通して、部員にコメントをお願いします

佐竹：桜美林高校の軽音楽部員としてのプライドを持って、これからも周りの人々を大切に、音楽を通して、たくさんの素晴らしいところや楽しさを伝えていける人になってください。

— デジレコ・バンド・クリニックを受講した感想を聞かせてください

佐竹：充実したクリニックで、あっという間の1日でした。生徒の気持ちや高校生としての立場を考えてくださっているのはもちろん、「学校の部活動の1つである」ということを意識してお話してくださったので、顧問の立場としても、本当にありがたかったです。とても教育的で、講義の内容もわかりやすいものばかりでした。ありがとうございました。



音楽の力で全ての人を笑顔に！

～ 0からつくる軽音楽部 ～

こんにちは！軽音楽部部長の鶴岡です。この度は新渡戸文化高校軽音楽部のページをご覧いただき本当にありがとうございます！現在は校内の文化部の中では1番活発に活動しています。しかし、そんな新渡戸文化の軽音楽部ですが、数年前までは思うように活動ができず、校内でも目立たない存在でした。今回は、そんな軽音楽部がここまで大きくなった理由を皆さんにお伝えします。このページは軽音楽部員が、新渡戸文化高校軽音楽部をどう伝えるか何度も話し合いを重ねて作り上げ、とても思い入れのあるページになりました。ぜひご覧ください！！

その1：部則作り

以前は特に目標もなく、校内で自分たちの楽しみとして演奏するだけの部活動でした。この状況を脱すべく「部則」を作りました。「挨拶・礼儀・感謝」です。初めて他校との合同ライブに参加した時、各校の部長が、とても大きな声で素晴らしい挨拶をしていたのが印象深く心に残っています。礼儀ある感謝の気持ちを込めた挨拶はとても大切だと思いました。

そして、新渡戸文化軽音楽部として恥じることのないよう「部則」の下に5か条を決めました。
①当たり前をできるようにする ②楽器と聞き手と仲間を大切に ③時間厳守 ④メリハリしっかり ⑤楽しむ、です。部則を作ったことにより、部員たちの行動が変わり、「挨拶、礼儀、感謝」を忘れずに毎日行動することで、人としてのマナーを身につけることができ、軽音部の立て直しに成功しました。

その2：意識向上のための取り組み

その日の活動でやることや目標を部員で共有するため、1日の部活動の始めと終わりに「点呼」と「反省会」を行うようにしました。始める際に行う「点呼」では、部員の出欠確認と練習でやることや目標を確認し、それぞれ活動に移ります。終わりの「反省会」では、点呼の時に言ったやることや目標が達成できたかを確認し、今日の活動の反省を言い合います。最後にメの挨拶をしてその日の部活動は終了となります。その挨拶の時に「今日も挨拶・礼儀・感謝を大切に1日活動できました？」といった問いかけを部員にしています。挨拶の度に部則を呼びかけることで、部員の意識を高めています。

その3：独自の活動

様々なジャンルの音楽に触れ、音楽の視野を広げるために、独自の取り組みとして「CDを聴く会」という活動を行っています。この活動は、誰か一人が持ってきたCDを全員で分析し、作詞者、作曲者の意図や工夫を読み取ることで曲への理解を深めます。グループを組んでアナリゼをし、それぞれの楽器の役割や曲の構成などを考え、最後にグループごとに意見交換をすることができます。この活動は、作曲をする際にも役立つことができる活動です。

その4：幸せを作る活動

新型コロナウイルスの影響で学校に行けない期間も活動を止めずに、zoomを利用してミーティングを定期的に行いました。コロナ禍だけ

らこそ「笑顔を届ける事ができないか」と考えながら、活動を続けていました。学校目標の「Happiness Creator (幸せの創造者)」にもあるように、学校が再開してからは音楽で多くの人に元気や希望を与え、笑顔になってもらいたいと思い、ガーデンでアコースティックライブを開催しました。ソーシャルディスタンスを保ってもらえるよう、マーカーや看板を立てたり、フェイスシールドをしたりと工夫をして開催しました。本番が終わってから、聴きにきてくれた小学生に「楽しかった！」「今度歌を教えてください！」と言われ、私たちの思いがしっかりお客さん届いていて、皆が幸せになれるライブにできたと実感しました。

その5：今後の活動に注目！

12月中旬には、ガーデンライブの時に声をか



※本稿は新渡戸文化高校軽音楽部の皆さんからいただいた原稿や写真を編集したものです



でも生徒一人ひとりが意見を言う場面があります。全員の意見を取り入れようと工夫している部員の姿勢は素晴らしいので、今後も続いて欲しいです。新渡戸文化の軽音楽部らしさはありますが、その時々メンバーによって部のカラーは変わります。一人ひとりの個性がより出せるようになると、さらにおもしろい部活になると思います。

③ 軽音楽部の立て直しの際に注意したことや気をつけたこと、苦労したことを教えてください。

塚越：苦労した記憶は特にないです。現在の軽音楽部員もそうですが、青春を軽音楽部に捧げている人が多いように感じます。しかし、当時の生徒との会話を思い出すと「どうせ軽音楽部なんて…」「そんなの無理だよ」というようなマイナスな声がとても多かった気がします。少しでも部員が思う、理想の軽音楽部像に近づけるように、とにかく話し合いの場を多く設けました。練習をせずに毎日話し合いをしていたこともありました。回数を重ねていくにつれ、徐々にイメージが統一化され、全体としてのまとまりも出てきました。まとまりが出て、前向きに活動するようになったことで、次第に校内での地位が上がり、立て直しに成功しました。

④ 今の状態になった軽音楽部に感じること、感想をお願いします。

塚越：現在の軽音楽部はみんながお互いを信頼し合い、あったかい、大きな「家族」のようだなと思っています。思いやりの心もち、軽音楽部に関わるすべての人たちのことを想いながらの活動は、なかなかできることではないし、素敵なことだと思います。今後の活動も、部員の幸せな気持ちが多くの人に伝わり、幸せな輪が広がって欲しいです。

⑤ この先の軽音楽部への希望や注文を教えてください。

塚越：より社会とつながったり、結びつけたりするような活動にしていけたらと思っています。軽音楽部の活動には、これからの持続可能な社会を生きていく上で必要な要素がいくつもあります。「やりたい」「やってみたい」という気持ちから、仲間と共にチャレンジしていくことで、答えのない社会で自分なりに答えを探索していく力も養われると思っています。現状に満足せず、活動をしていきましょう。

けてくれた小学生と一緒にライブをする予定です。現在は放課後の時間に小学校に行き、ライブに向けての計画を小学生と練っています。このように部内で完結することなく、外に活動の幅を広げているのも特徴の1つです。生徒の声から企画が生まれ、様々なことにチャレンジしています。

また、今年度の目標は「ファンを作る」です。たくさんの人に聴いてもらい、私たちの「ファン」になってくれることを願ってこの目標にしました。ライブ活動で、自分たちが自信をもってやっていることを外部に積極的に発信していきたいとも思っています。

おわりに

新渡戸文化の軽音楽部が校内1の部活動に成長できたのは、ルールを作ったり活動の幅を広げたりしただけではなく、部員同士での団結力や絆が生まれたからこそだと思います。団結力や絆はモチベーションを高め、モチベーションがあると行動力が増します。すると活動の幅を広げることができ、また団結力や絆が深まります。このように幸せを作る活動は自分達の幸せに繋がり、良いサイクルができます。これまでの軽音楽部が進化できたのは、この「良いサイクル」ができたからだと思っています。学校生活が始まってから新入部員が加わり、さらに大きなサイクルができようとしています。これからも新渡戸文化高校軽音楽部は進化していくので温かく見守っていただければと思います！

新渡戸文化高等学校 軽音楽部一同

顧問の 塚越 環先生に インタビュー！

① 軽音楽部の顧問をされていて何を思いますか？部員たちをどう思っていますか？

塚越：軽音楽部の顧問はとてもパワーが必要だと思っています。部員は様々な「やりたい!」「やってみたい!」をもっていたり、思いもよらないような面白い発想があったりして、毎回驚かされます。そんな部員の想いを叶えるためには、こちらがたくさんの引き出しを持っていないといけません。日頃からいろいろなアイデアを出したり、生徒の意見を聞いたりするように心がけています。

② 軽音楽部にどうなって欲しいと思いつつ、部員に接していますか？

塚越：一人ひとりが輝けるような部活になって欲しいと思いつつ部員に接しています。部として1つのことを決める際には多数の意見を採用することが多いですが、活動の中ではなかなか表には出てこない少数の声を大切にしています。その都度行われる、ミーティングや反省会



あなたにとって“音楽”とは？

新渡戸文化高等学校軽音楽部

軽音楽部をより良いものにするため、1人1人の音楽に対する意識を再認識しようと考え、
部員たちに「あなたにとって音楽とは？」という質問をしました。

歌っている時や楽器を弾いている時など、音楽に触れている時の自分はどんな気持ちなのだろう？

そんなことを考えながら、1人1人が書きました。

今このページを読んでいるあなたにも「自分の中の音楽」が、あるかもしれませんね。

音楽は、
「生きるに
寄り添うもの」

落ち込んだ時や浮かれている時、音楽はいつもその気分に寄り添ってくれます。ときには励ましてくれたり、ときには悲しい気持ちに寄り添ってくれたりします。楽しかったり、ノリのかっこいい曲などを聴くと、一気に気分が高まるなんて経験もある人の方が多いと思います。音楽は、人の心を動かし、潤してくれる、嫌なことから助けてくれたりもします。だからこそ、僕にとっての音楽は「生きるに寄り添うこと」であり続けるのだと思います。(D.M.)

気持ちを
あらわに
できるもの」

音楽とは感情をあらわにできるもの。この一言に尽きると思ったからです。楽しんだり、喜んだり、時には悲しんだり、そのように様々な感情が出るものだと思います。(Y.A.)

アツい想いか
悲しい想いか
いろいろな感情を
与えてくれる。

静かな曲を聴けば落ち着くし勢いのある曲を聴けば盛り上がる、歌詞でいろいろ考えることもできる。そんないろいろな感情や想いを与えてくれる音楽が、感情や感受性が人に大事なものだと思うからです。(Y.T.)

表現する
手法の一つ

言葉で何かを伝えるより、音楽などの芸術を通して伝えた方が伝えやすいです。日々自分を隠してる訳ではないですが、音楽などを通して表現している時が一番自分が出ていると思うからです。何か表現したいものがある限り手放すことはないです。(R.U.)

生きる力

音楽は寂しさを埋める力や元気づける力、様々な力があると思います。それは、人によって違うでしょう。けど、共通していることは、生きていて音楽を耳にしないということはないということです。そう考えた時に、私は生きる力だと感じました。人間、「死んだ時に最後まで耳は聴こえている」というのを耳にしたことがあります。それほど人間にとって耳から聴こえてくる音は大事なもののだとそれを聞いた時に感じました。私にも好きなアーティストがいます。この人たちの曲を聴くだけで、日頃の疲れがなくなるかのようにスッキリしたり、落ち込んでいる時に元気になったりと、本当に日々助けてもらっています。音楽に触れることで、いろいろな気持ちを学んだり、人間性を進化させたりと音楽は本当にすべてのことを変えることができると思っています。これからも続く人生の中で新たな音楽に出会うことで、今はわからない自分のこと、他人のことがわかるかも知れません。音楽を通して、多くの人々を楽しませる、元気づける、そんなことができるようになれば良いと思います。(K.N.)

人が幸せにすること!

私にとっての幸せの1つに音楽があります。私が好きなアーティストのライブに行った時は、いつも感動と幸せで歓喜あまって泣いてしまいます。逆に、曲を作り演奏をする側でも聴いてくれる方に演奏し自分の想いを届けられる幸せと、その届けた想いを理解してくれて、「良いね」と言ってもらえる幸せを軽音楽部においてから感じることができました。音楽はいつでも私たちに寄り添い、励ましたり楽しませたり勇気をくれたりします。そのすべてが幸せにつながると思うからです。(J.T.)

創造力を 掻き立ててくれる

私は絵を描くのが好きで、好きな曲を聴いていると、この構図いいな、この曲のコンセプトいいな、次はこのイメージで描いてみよう。新しい曲に出会った時に、ビビッとくればその曲を繰り返し聴きながら絵を完成させたりなど、ふっと頭に浮かんで来て、音楽を聴いてインスピレーションが湧いて、描いた絵は

満足のいく絵になることが多いです。なので音楽とは私の創造力を掻き立ててくれるものです。(K.S.)



日常の中で苦しいことや悲しいことがあっても、音楽を聴くことで楽しい気持ち、穏やかな気持ちになり、癒されるから。(A.I.)

生活の 一部

物心ついた時から楽器に触ってきたので、音楽がない人生なんて考えられないからです!! (S.N.)

人々を感動させる 力がある!!

夏休みの課題のプレゼン型三者面談で、ピアノの弾き語りをしました。先生からのコメントで「とても感動した、ぐっとくるものがあった」などの感想をいただきました。音楽1つで人の心を動かしたりすることができるんだなと私自身とても嬉しく思いました。(S.I.)

人の心を 動かす力がね

普段の生活で疲労やストレスなどで気持ちが落ち込んでいた時に、好きな曲、アーティストさん、歌手さんの音楽を聴いたあととても幸せで、これからも頑張ろうと思えました。また、動きたくない時何もする気が起きなかった時に楽しい音楽を聴いたあと、とても1日楽しく動くことができました。私自身が心を動かされた音楽は今でもとても好きで、歌詞に共感して楽しんだりしています。(A.Y.)

- ① magic
- ② 癒し
- ③ トロピ
- ④ トロピを奪えるヤ

①音楽を奏でる人も聴く人も楽しむもの
②どんな気持ちで聴いていても、元気になることができる
③歌う側は歌いながらどうしたら人の心に響くか客観的に見ながら音楽を考える
④私はプロの声優さんたちの演技力や表情、op.ed を歌っている歌手に憧れたから (Y.K.)

自分を表現するもの

演奏することで表現する他にも、聴いて表現することもできると思うからです。例えば、自分が楽しい時や落ち込んだ時など、その時の気分によって聴く音楽が違うことは、音楽によって感情を表現することだと思います。他にも、僕は聴いている音楽のジャンルによって洋服の系統が変わるので、音楽によって個性を表現することにつながると思います。このように、音楽は自分を表現するものにつながっているのかなと思います。(T.M.)

言葉以外の 表現方法 音楽の力で 幸せにできる

音楽に今まで関わってきた中で音楽の力で喜びや悲しみ、苦しみなどをたくさんの人に伝えることができたり、自分の中に秘めている想いを出ることができたりすると思ったからです。(N.S.)

僕にとっこの音楽は 元気にしてくれたり励まして くれたもの。

音楽を聴いていると歌詞の想いが詰まっていたその想いが辛い経験だったりして、その辛い経験の想いがわかると辛い経験をしているのが自分だけじゃないんだって思っって元気が出ます。(R.S.)

心境

楽しい時に暗い曲を聴かないように、楽しい時は楽しい曲を聴くし、悲しい時は暗い曲を聴いた方が心が乗るからです。(H.K.)

生きる 活力

私は毎日好きな音楽を聴いて、元気や癒しをもらっています。それだけでなく、歌詞に励まされたり、人生のヒントをもらったりしているからです。音楽は、私の生活に欠かせないものになっています。(M.I.)

音楽で人と 身も心も つながることができる。

音楽は演奏する人も聴く人もみんなを幸せにしてくれる力があります。演奏をすることで自分たちが感じるものを聴く人に届けられるため、会場にいる人たち全員と同じ気持ちにさせてくれます。その音楽を聴いたたくさんの人と、言葉だけでは表現できない感情や思いを共有し、共感することができる。それは音楽を演奏する上でとても幸せなことであり、音楽の素晴らしい所だと考えています。(L.M.)

文部科学省「『学校と地域が協働・融合』した部活動の具体的な実現方策とスケジュール」を取りまとめ

部活動における改革が様々に叫ばれる中、文部科学省・文化庁はいくつかの施策を模索し始めています。多くは、顧問の「働き方改革」に起因しているものと思われるが、大切なのはもう一方の当事者である生徒たちにとって望ましい環境を構築することです。現在、時代の流れとともに部活動の大きな変化が求められていることは間違いありません。施策の1つである「部活動の地域移行」について、具体的な実現方策とスケジュールが示されています。

将来的には地域単位の取り組みに

平成30(2018)年3月に、文化庁によって「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が、同年12月には「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定されました。これらは、義務教育である中学校段階の部活動を想定したものです。高等学校段階の部活動についても「本ガイドラインを原則として適用し、速やかに改革に取り組むこと」とされています。このガイドラインには、「学校と地域が協働・融合した形での持続可能なスポーツや芸術文化などの活動のための環境整備を進める」と記されています。

また、平成31年(2019)年1月には、中央教育審議会において、「新しい時代の教育に向

けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について(答申)」が取りまとめられました。この答申では、「学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務」の1つとして部活動を挙げ、「部活動の設置・運営は法令上の義務ではなく、将来的には部活動を学校単位から地域単位の取り組みにし、学校以外が担うことも積極的に進めるべき」としています。

学校部活動と地域部活動の連携

これらのガイドラインや答申を元に、文部科学省は令和2年(2020)年9月、学校における働き方改革も考慮したさらなる部活動改革の推進を目指す第一歩として、「『学校と地域が協

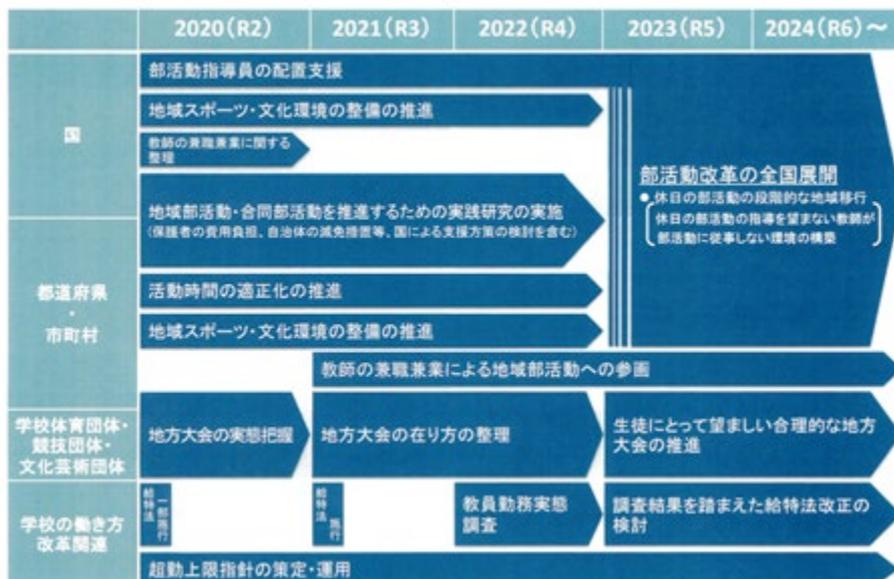
働・融合』した部活動の具体的な実現方策とスケジュール」を取りまとめ、都道府県教育委員会をはじめ、各都道府県、関係団体へ送付しました。こちら、主として公立中学校を対象としています。高等学校においては学校の特色として位置付けられていたりする場合もあるため留意すべきであることとしながらも、「設置者の責任において教師の負担軽減を考慮した指導体制の構築が望ましい」としています。これは、私立学校においても同様です。

文化庁は現在、部活動が抱えている問題は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会であり、多様な生徒が活躍できる場である部活動が、これまでは教師による献身的な勤務の下で成り立ってきたこととしています。中でも、部活動が休日を含む長時間勤務の要因であることや、指導経験のない教師にとって多大な負担となっていると指摘しています。そこで、特に休日の部活動における教師の負担軽減を図る必要があるとして、部活動に代わって生徒が自主的にスポーツ・文化活動に取り組み、体力や技能の向上を目指す活動機会を保障する観点から、教師の勤務を要する日(平日)に行われる「学校部活動」と、教師の勤務を要しない日(休日)に地域の活動として行われる「地域部活動」が連携を図りながら、生徒が望むような体制作りに取り組んでいくことが求められるとしています。

拠点校における実践研究開始

本スケジュールにおいては、来年度(2021年度)以降、文化庁によって拠点校(地域)における実践研究が始まります。これは、休日に教育指導を行わないことと同様に、「休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革のスケジュールについて



▲中央教育審議会の答申や給特法改正の国会審議での「部活動を学校単位から地域単位の取り組みとする」という指摘を踏まえつつ、文部科学省が明示したスケジュール

すること」や、「休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備すること」などを改革の方向性として示しています。そして、その成果や課題をもとに、休日の部活動の段階的な地域移行を図り、合理的で効率的な部活動の推進を図ることとしています。

具体的な方策としては、以下のようなことが挙げられています。

① 休日の部活動の段階的な地域移行

・休日の部活動における生徒の指導や大会の引率については地域人材が行う。令和5年度以降は休日の部活動指導を望まない教師は従事しないこととする。

・地域部活動の運営主体は、退職教師、地域の指導者、クラブや団体になると考えられるため、地域部活動の運営を担う人材や団体、指導者を確保する。

② 合理的で効率的な部活動の推進

・過疎地域などでの市町村を超えた他校との「合同部活動」を推進する。ICT（情報通信技術）教育の活用を推進する。

・全国大会、主に地方大会の在り方を整理し、見直しを促進する。

①については、大会の引率などで地域人材が確保できないなど、やむを得ない場合には教師が行うことも考えられること、地域部活動の際に生徒が怪我をしたり事故が発生した場合の責任の所在を予め明確にし、生徒や保護者の理解を得ることが望ましいとしています。また、休日の指導を行う人材の確保として、人材バンクの整備・活用や休日の指導を希望する教師への教育委員会における兼職兼業の許可の仕組みを整える、部活動指導員の国による支援を継続するとしています。もちろん、活動場所や用具の使用料、指導者への謝金などの費用負担の問題もあります。このあたりの調整は、今後検討が進むと思われます。

より良い環境作りのために

NPO 法人全国学校軽音楽部協会では、株式会

社三菱総合研究所による文化庁委託事業「地域文化倶楽部（仮称）の創設に向けた調査研究事業」の調査に協力しています。この事業は、児童・生徒が身近な地域で学校の文化活動に代わりうる質の高い文化芸術の機会を確保できるよう、学校や地域が地域の文化施設や文化芸術団体、芸術系教育機関などとの連携により、文化部活動を地域に移行した事例を収集・周知すると共に、地域に向けた体制構築や持続可能な環境整備を図るための調査研究を行っているものです。そして、有識者による検討会議にて、文化部活動の地域移行の方向性を検討することを目的としています。

コロナ禍において、部活動に関する様々な意見や思いがある中で、部活動の地域以降はまだまだクリアしなければいけない問題が山積していると思われます。当協会は、文化庁による今後の文化部活動の地域移行検討に微力ながら協力させていただくことや、現場との橋渡しの役割を担っていくことで、顧問の皆さんにとっても軽音楽部員の生徒の皆さんにとっても、軽音楽部の活動のより良い環境作りが進むことを願い、今後の動きに注目して参ります。

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革 概要

部活動の意義と課題

- ✓ 部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場である。
- ✓ 一方、これまで部活動は教師による献身的な勤務の下で成り立ってきたが、休日を含め、長時間勤務の要因であることや、指導経験のない教師にとって多大な負担であるとともに、生徒にとっては望ましい指導を受けられない場合が生じる。
- ✓ 中教審答申や給特法の国会審議において「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨が指摘されている。

持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要

改革の方向性

- ◆ 部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築
- ◆ 部活動の指導を希望する教師は、引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築
- ◆ 生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備

具体的な方策

I. 休日の部活動の段階的な地域移行（令和5年度以降、段階的に実施）

- 休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保（育成・マッチングまでの民間人材の活用の仕組みの構築、兼職兼業の仕組みの活用）
- 保護者による費用負担、地方自治体による減免措置等と国による支援
- 拠点校（地域）における実践研究の推進とその成果の全国展開

II. 合理的で効率的な部活動の推進

- 地域の実情を踏まえ、都市・過疎地域における他校との合同部活動の推進
- 地理的制約を越えて、生徒・指導者間のコミュニケーションが可能となるICT活用の推進
- 主に地方大会の在り方の整理（実態の把握、参加する大会の精選、大会参加資格の弾力化等）

※ 以上の取組は、主として中学校を対象とし、高等学校においても同様の考え方を基に取組を実施。

※ 私立学校は、以上に示した公立学校の取組を参考に、教師の負担軽減を考慮した適切な指導体制の構築に取り組むことが望ましい。

▲文部科学省が推進する部活動の適正化に「学校の働き方改革」は欠かせない問題です

「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」 と軽音楽部の接点

平成30年12月に文化庁によって策定された「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」は同年3月にスポーツ庁より策定された「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に準じています。これらは近年、部活動に関しての様々な問題に対して検討されたもので、本来、部活動は教育の一環であり、社会人としてのスキルを学ぶためのものだという考え方が根底にあります。軽音楽部には、文化庁のガイドラインとの接点を多く見るすることができます。その接点のいくつかを一覧にしてみました。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会 副理事長 辻 伸介

文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

1 適切な運営のための体制整備

(2) 指導・運営に係る体制の構築（抜粋）

イ 学校の設置者は、各学校の生徒や教師の数、部活動指導員の配置状況や校務分担の実態等を踏まえ、部活動指導員を積極的に任用し、学校に配置する。（中略）服務（校長の監督を受けることや生徒、保護者等の信頼を損ねるような行為の禁止等）を遵守すること等に関し、任用前及び任用後の定期において研修を行う。

ウ 校長は、文化部顧問の決定に当たっては、校務全体の効率的・効果的な実施に鑑み、教師の他の校務分掌や、部活動指導員の配置状況を勘案した上で行うなど、適切な校務分掌となるよう留意するとともに、学校全体としての適切な指導、運営及び管理に係る体制の構築を図る。

カ 都道府県、学校の設置者及び校長は、教師の文化部活動への関与について、「学校における働き方改革に関する緊急対策（平成29年12月26日文科科学大臣決定）」及び「学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取組の徹底について（平成30年2月9日付け29文科初第1437号）」を踏まえ、法令に則り、業務改善及び勤務時間管理等を行う。

教師の負担軽減と外部人材の参画

軽音楽部では、他の部活動のように「レギュラーと補欠」という図式ではなく、全員がそれぞれバンドというグループに所属して活動します。もちろん、各パートごとに別れて基礎練習などを行うこともありますが、先輩バンドが後輩バンドにアドバイスをする、異学年と一緒にバンドを組むなど、軽音楽部ならではの先輩後輩の良好な関係が生まれやすく、自然と異学年の交流が盛んになります。

また、基本的に生徒の自主性・主体性が不可欠な軽音楽部においては、今後、部活動指導員をはじめ外部人材の積極的な参画が進めば、さらに教師の負担軽減につながります。顧問の指導に頼りすぎず、生徒だけでも持続可能な運営体制が確立されます。

文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

2 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組

(1) 適切な指導の実施（抜粋）

イ 文化部活動の指導者は、（中略）過度の練習が生徒の心身に負担を与え、文化部活動以外の様々な活動に参加する機会を奪うこと等を正しく理解するとともに、生徒の芸術文化等の能力向上や、生涯を通じて芸術文化等に親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコミュニケーションを十分に図り、生徒がバーンアウトすることなく、技能等の向上や大会等での好成績などそれぞれの目標を達成できるよう、分野の特性等を踏まえた合理的でかつ効率的・効果的なトレーニングの積極的な導入等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。（後略）

4 生徒のニーズを踏まえた環境の整備

(1) 生徒のニーズを踏まえた文化部の設置（抜粋）

ア 校長は、学校や地域の実態に応じて、現在の文化部活動が、性別や障害の有無を問わず、生徒の多様な潜在的なニーズに必ずしも応えられていないことを踏まえ、技能等の向上や大会等での好成績以外にも、友達と楽しめる、適度な頻度で行える等、生徒が参加しやすいような多様なレベルや生徒の多様なニーズに応じた活動を行うことができる文化部を設置する。（後略）

合理的、かつ効率的・効果的な活動と生徒のニーズ

軽音楽部はバンドごとに活動するため、楽器の演奏技術向上や合奏することに重きをおきたい、ライブを行うことや大会に出場することを目標にしたい、オリジナル楽曲作成やレコーディングを行って音源制作に力を入れたい…といった、多様なニーズに応えることができます。やり方によっては、期間を設けて様々なことにチャレンジしたり、各々が自由に活動を広げることができ、部活動への過度な傾注やバーンアウトすることなく、軽音楽という文化芸術活動を続ける基礎を育みます。

また、軽音楽部に性別や障害による差別はなく、メンバー間に活動への温度差が生じたりした場合でも、チーム分けを変更すれば、部活動を継続させることも可能です。

文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

4 生徒のニーズを踏まえた環境の整備（抜粋）

(1) 生徒のニーズを踏まえた文化部の設置

イ（前略）単一の学校では特定の分野の文化部活動を設けることができない場合には、生徒の部活動参加の機会が損なわれることがないように、複数校の生徒が拠点校の部活動に参加する等、合同部活動等の取組を推進する。また、持続可能な活動を確保するため、長期的には従来の学校単位での活動から一定規模の地域単位での活動も視野に入れた体制の構築が求められる。（後略）

4 生徒のニーズを踏まえた環境の整備（抜粋）

(2) 地域との連携等

ア 都道府県、学校の設置者及び校長は、家庭の経済状況にかかわらず、生徒が芸術文化等の活動に親しむ機会を充実する観点から、（中略）地域の人々の協力や体育館や公民館、美術館・博物館などの社会教育施設、劇場、音楽堂等の文化施設の活用や芸術文化関係団体・社会教育関係団体等の各種団体との連携、保護者の理解と協力、民間事業者の活用等による、学校と地域が共に子供を育てるという視点に立った、学校と地域が協働・融合した形での地域における持続可能な芸術文化等の活動のための環境整備を進める。

合同部活動などの取り組みの推進

軽音楽部は活動の単位がバンドという小さなグループであるため、他の部活動よりも地域での合同部活動の展開も可能です。バンド同士の交流はもちろん、互いにメンバーを入れ替えてのセッションなども比較的容易です。それは、コンダクターの指示や譜面どおりに演奏を再現することが目的ではなく、生徒自らがコード・ネームを使用したり、創作力を持って演奏することが多い軽音楽部だからできることです。他パートへアイデアを出し合ったり、合奏の構築を普段から自主的に行っているからこそ可能なことだと言えます。

また、同じ理由から、地域のお祭りや老人ホームへの慰問、公共施設での演奏会など、地域との連携が比較的容易です。機材のセッティングや片付けは大変ですが、ほとんどを電子楽器で行う軽音楽部では、場所や状況に応じた音量で演奏することが可能です。電子ドラムを使用してほぼ無音でライブを行ったり、アコースティック・ギターやカホンを使用して楽曲をイベント用にアレンジすることもできます。自らの演奏を不特定多数の観客に聴いてもらえるように努力することは、音楽を通じた文化芸術活動として、とても意義のあることです。

文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

本ガイドラインは、生徒の視点に立った、学校の文化部活動改革に向けた具体の取組について示すものである。中学生及び高校生の時期は、生徒自身の興味・関心に応じて、教育課程外の学校教育活動や地域の教育活動など、生徒による自主的・自発的な活動が多様化していく段階にある。少子化や核家族化が進む中において、学校外の様々な活動に参加することは、実生活や実社会の生きた文脈の中で様々な価値や自己の生き方について考えることができる貴重な経験となり、幅広い視野に立って自らのキャリア形成を考える機会となることも期待される。また、生徒が多様な学びや経験をする場や自らの興味・関心を深く追究する機会などの充実につながるものである。

文化庁ホームページから検索できます。
<https://www.bunka.go.jp/index.html>

文化部活動ガイドライン

検索



文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

平成30年12月



軽音楽部の大会における統一審査基準（案）

愛知県高等学校軽音楽大会、高等学校軽音楽コンテスト中部大会において実施中

1. 審査の方向と基本的な考え方について

- 軽音楽部の大会は部活動の延長線上にあるため、部活動として「本番までにメンバー全員で何を積み上げてきたか」「全員で良いステージを作れたか」を主な審査の対象とする。
- 個々のテクニックや才能よりもアンサンブルを重視し、全員で同じ目標に向かってきたかという「チームワーク」や「チームプレー」を審査する。
- 将来性、個別のアクシデントや諸事情などは考慮せず、当日のステージの完成度のみで審査する。個人の楽器トラブルなども場合によっては審査の対象とする。
- 軽音楽部はバンド演奏を通じて「コミュニケーション」を学ぶ場でもあるので、バンド形態での出場を原則とする。

2. 楽曲のカテゴリーについて

- 演奏する楽曲がオリジナル楽曲なのかコピー楽曲なのかは問わない。ただし、「クリエイティビティー」が特徴である軽音楽部の大会においては、オリジナル楽曲である方が望ましい。
- コピー楽曲の場合、審査員がその楽曲を既知かどうかで評価が変わる可能性があるため、原曲との違いで評価しない。
- カバー楽曲の場合、あくまでも「アレンジ」と捉えてオリジナル楽曲とは認めない。ただし、アレンジに対するオリジナリティーやクリエイティビティーは審査の対象とする。
- オリジナル楽曲の場合、審査員の好みによって評価が変わる可能性があるため、楽曲の良し悪しで評価しない。
※ケースによっては、楽曲の音楽性や良し悪しを通常審査とは別枠で「楽曲賞」を設けることで評価することもある。

3. 審査項目について①

合奏力

その楽曲を「演奏」するために必要なことを、メンバー全員でどれだけ突き詰めて練習してきたか。また、披露できていたかを審査する。単純に個々の技術の評価するわけではない。

① **テクニック** -----
メンバー全員がその楽曲を演奏するための技術をどれだけ習得していたか。

- 個人のハイレベルなテクニックは合奏にそぐわなければ評価しない。ただし、何もしないことが良いわけではない。
- コピー楽曲の場合、原曲に忠実かどうかよりも「良い合奏」を目指していたかを評価する。
- オリジナル楽曲の場合、個々のフレーズのアイデアやセンス、オリジナリティーなどはここでは評価しない。そのフレーズを表現するための演奏技術のみで評価する。
※部活動は単に技術の向上が目的ではなく、「技術は合奏のため」という意識を育てる。
※選曲やレベルに合ったアレンジなどをメンバーで協力して考える意識を育てる。

② **リズム理解** -----
メンバー全員がその楽曲を演奏するためのリズム（テンポ、グルーブなどを含む）をどれだけ理解していたか。また共有、及び披露できていたか。

- 全員がリズムの共有をしていたかを評価する。
- 楽曲に合ったテンポで演奏し、全員でテンポ・キープができていたかを評価する。
- 原曲に忠実かどうかよりも「良い合奏」を目指していたかを評価する。
※各々がテンポ・キープ、リズム・キープをする意識を育てる。
※音楽にはリズムが伴っていなければならないという意識を育てる。
※ポピュラー・ミュージックにとって大事な「グルーブ」への意識を育てる。

- ③ **セオリー** -----
メンバー全員がその楽曲を演奏するための音楽的知識をどれだけ習得していたか。また共有、及び演奏できていたか。
- 個々のフレージングにおいて、キー、構成、和音、コード進行などが理解できていたか。
- コピー楽曲の場合、原曲に忠実かどうかよりもハーモニーとして成立していたかどうかを評価する。原曲が音楽理論上、あるいは聴感上、音の重ね方などがおかしい場合であっても考慮しない。
- オリジナル楽曲の場合、コード・アレンジのアイデアやセンス、個々のフレージングなどのオリジナリティーはここでは評価しない。メンバー全員の和音への理解を評価する。
※各パートのフレーズが絡み合っているという意識を育てる。
※キー、スケール、コード、コード進行などの必要最低限な音楽的知識の必要性を育てる。

3. 審査項目について②

表現力

その楽曲を「表現」するために必要なことを、メンバー全員でどれだけ突き詰めて練習してきたか。また、披露できていたかを審査する。

①イメージ共有

メンバー全員がその楽曲の歌詞や世界観、感情、ダイナミクスをどれだけ理解し、また共有して、どれだけ独自性を出しながら演奏できていたか。また表情やステージングなどで演出し、表現できていたか。

- 例え、音楽理論上は奇抜なフレーズであっても、楽曲の表現として成り立っていれば評価する。
- 個性に関するオリジナリティーはオリジナル楽曲の場合もコピー楽曲の場合も、歌唱や演奏が音楽的かどうかを重視し、評価する。
- 派手に動きまわることや動かないステージングなどは楽曲にそぐわなければ評価しない。楽曲のイメージに合ったステージングやパフォーマンスができていたかを評価する。
- 客席に音楽や楽曲に含まれるメッセージなどを伝えようとしていたかを評価する。
- きちんと演出されていたかどうかではなく、メンバー全員が1つになってドラマを作ろうとしていたかを評価する。

※自己満足で終わらず、全員で人に何かを伝える演奏を目指す意識を育てる。

※人前で演奏するという事は楽曲を聴いてもらうためだけでなく、ステージを見てもらうことでもあるという意識を育てる。

②バランス

ステージ上でメンバー同士が連携を取りながら演奏できていたか。各パートの音量や音色、音の定位、音域などのバランスが取れていたか。

- 演奏中、お互いを意識して「合わせよう」としていたか。アイコンタクト、ミスやトラブルのフォローなども評価の対象とする。
- テーマ・メロディーやソロなどの音量や音色は適切で、押し引きができていたか。
- それぞれがその楽曲の合奏に合う音作りができていて、歌を含むすべてのパートがきちんと聴こえていたか。
- チューニングが合っていたか。
 - ※自分が全体の中の1人であり、アンサンブルの中でどう演奏すれば良いかという意識を育てる。
 - ※音楽は「音」として全員で奏でるものであるという意識を育てる。
 - ※楽器を「楽器」として扱い、本番に向けたメンテナンスや調整の必要性を理解させる。

4. 審査方法と賞について(例)

- 審査員3名(1名は審査員長)が上記の考え方にに基づき、総合的な審査を点数によって行い賞を決定する。同点だった場合は審査員、及びコメンテーターによって協議され、最終的に審査員長が判断する。
- 審査員は各バンド演奏終了後に講評し、アドバイスシートに全体的なアドバイスを記入する。コメンテーターは審査には関わらず、パートごとのアドバイスをシートに記入する。
- 審査の点数は開示し、アドバイスシートは各校へ渡すことによって今後への意欲につなげる。
- 出場するバンド数が多く、演奏楽曲にオリジナル楽曲とコピー楽曲が混在する場合の部門分けやオリジナル楽曲の優秀性を審査しての「楽曲賞」の授与、各パートごとの「個人賞」の授与など、ケースによってのアレンジは可能とする。

①各賞の例

グランプリ	1バンド
準グランプリ	1バンド
第3位	1バンド
奨励賞	3バンド
楽曲賞(オリジナル楽曲のみ)	1バンド
個人賞	各1名
ベスト・ボーカリスト	
ベスト・ギタリスト	
ベスト・ベーシスト	
ベスト・ドラマー	
ベスト・キーボーディスト	

ベスト・プレイヤー

(上記以外の楽器演奏などで優秀な生徒がいた場合)

②楽曲賞

オリジナル楽曲において、歌詞、メロディー、コード進行、バンドアレンジ、パートアレンジなどを含め、総合的に優れていたグループに贈られる賞。

- 作者個人ではなく、グループに贈るものとする。
- 個人、及びバンドの演奏力や表現力は審査の対象に含まない。

③個人賞

個人のテクニックや音楽的センスが優れていた生徒へ贈る賞。

- アンサンブルを無視した身勝手な演奏などは対象外とする。
- オリジナル楽曲やカバー楽曲の場合、個性やオリジナリティーも評価の対象とする。ただし、音楽的でない場合は評価の対象としない。

④その他、演奏中止、審査対象外、失格になる場合もある。

- 危険行為を行った場合。
- あきらかに演者の行動が起因となる遅延があった場合。
- 誹謗中傷や暴言など、部活動にそぐわないMCや発言があった場合。
- その他、大会規定のルールを守らなかった場合。



軽音楽部の 楽器や機材は 軽音協に ご相談ください。

www.keionkyo.shop



※利益は軽音楽部の支援活動に還元しています

軽音協のオール電化計画

**バンド練習も個人練習も、外に音を出さない。
新しい時代の軽音楽部の練習環境と機材。**



校内外への騒音問題、練習時間の不足、練習内容の改善などを考慮すると、校内の部活動としての軽音楽部では、最新のデジタル楽器や機材を活用することで、多くの課題が解決すると思います。

サイレント・スタジオ

電子ドラムとデジタル・ミキサーを組み合わせることで、音を外に出さずにバンド練習をすることができます。詳しくは紹介動画をご覧ください。

お見
積り
例

ZOOM / L-12 + Roland / TD-1DMK サイレント・スタジオ・システム セット A

軽音協ショップ価格 **161,000円** (税別)

月額リース料 **4,000円** (税別) より

※リースの適用下限度額は200,000円(税別)です



紹介映像

個人練習もサイレント。マルチ・エフェクターで練習が変わる！



ZOOM / G1 FOUR (ギター用)

Fender、Marshall、Orange といったジャンルや年代を問わずにギタリストを魅了し続ける13種類のアンプ・モデルと、あらゆるジャンルに対応する60種類のエフェクトを搭載しています。

軽音協ショップ価格 **7,380円** (税別)



ZOOM / B1 FOUR (ベース用)

Fender や Ampeg などの定番アンプ・モデル9種類と、ベースの音作りに欠かせない60種類のエフェクトを搭載したベースリスト必見のマルチ・エフェクターです。

軽音協ショップ価格 **7,380円** (税別)



紹介映像

特定非営利活動法人 (NPO法人)

全国学校軽音楽部協会

URL : www.keionkyo.shop TEL : 045-913-0901 FAX : 045-913-1900



楽器や機材の導入は「リース」がオススメ！

軽音協 × シャープファイナンス

① 少ない資金で希望の
楽器・機材を導入できる

② リース物件は
動産総合保険に加入済み

●十分な予算がなくても、月々の支払いで無理なく導入できます。 ●楽器や機材の選定からメンテナンスまで、安心のサポート体制。(故障時の修理と代替機の保証も含まれます)

その他...何でもご相談ください。